調査からみえる日本人の食卓

～「食生活に関する世論調査」から①～

世論調査部　村田ひろ子／政木みき／萩原潤治

本稿は，NHKが2016年に実施した「食生活に関する世論調査」の連続報告（2回）の初回にあたる。日本人の食生活を，食べているものや価値観，メディアとの関係から分析する。

1日3回食事をとっている人は8割で，毎日ごはんを食べている人は9割に達する。食生活に満足している人は84%に上り，なかでも野菜を毎日食べている人や加工食品を食べない人，家族と一緒に食事をすることが多い人で満足度が高い。

経済状況による食生活の違いをみると，世帯年収が低い人ほど野菜や肉を食べる頻度が低くなり，食費を家計の負担だと思う人が多い傾向がある。食費に対する負担感は，子どもがいる人でさらに強い。

食品を買う際，重視することについては，10年前と比べ「安全なこと」を挙げる人が増え，「新鮮なこと」と同様，最も重視される項目となった。強い安全志向は，国産か外国産かの選択においても顕著で，生鮮食品は価格が高くても国産を選ぶという人が85%に上り，その多くが安全性を理由に挙げた。下降傾向にある日本の食料自給率を高めたほうがよいと考える人は76%を占める。

女性40代まででは，料理をする際「インターネット上のレシピ」を参考にする人が多数を占め，若い女性では料理の写真をSNSやブログに投稿する人が半数を超えるなど，若い人を中心に，インターネットが食生活に浸透している様子もうかがえる。

「土用の丑の日のうなぎ」を食べる人が減少し半数を割った一方で，「節分の巻き寿司」は全国どの地域でも半数超の人が食べるようになるなど，行事食の食べ方にも変化がみられる。

1　はじめに

単身や共働き世帯の増加を背景に加工食品の利用が増え，グローバル化に伴って安い外国食品が流入するなど，日本人の食生活をとりまく環境は大きく変わっている。SNSを通じた食に関する情報交換など，食をめぐる新しいコミュニケーションも生まれている。

いま日本人はどんなものを選択し食べているのか。原材料高騰による食品の値上げが相次ぐなか，家庭の経済状況によってどんな違いがみられるのか。家族と囲む食卓像や人々が「食」に求めるものに変化はみられるのか。NHKでは，2016年2月から3月にかけて，全国の16歳以上を対象に「食生活に関する世論調査」を実施した。

調査の報告は2回に分けて行い，初回の本稿では，日本人の食生活の現状を，食べているものや食において重視していること，食とメディアとの関係から分析する。第2回は，家族との“共食”の実態や男女の食事作りの分担，親子の料理体験の継承など，家族と食の関係について報告する。

なお，2006年にも同様の調査を実施しており，比較可能な質問については時系列の変化も交えて分析する。属性質問を除くおよそ70項目のうち，家族との夕食や料理にかける時間，食事中のしつけなど，20項目近くが10年前の調査と同じ質問である。これに対し新設したのは，食のグローバル化や食とインターネッ

表1　調査の概要

	2016年調査	2006年調査
調査時期	2月27日（土）～3月6日（日）	3月11日（土）～19日（日）
調査方法	配付回収法	
調査相手	全国16歳以上の3,600人（12人×300地点）	
調査有効数（率）	2,484人（69.0%）	2,422人（67.3%）

トの関係，食費の負担感についてたずねる質問である。このように今回の調査は10年前とは設計が異なっているため，時系列比較を行う際は，回答の割合が大きく変わっている項目を中心に，慎重に取り扱うこととする。

調査の概要は**表1**のとおりである。2016年調査の単純集計結果およびサンプル構成は，文末に記した。また2006年調査については，本誌2006年8月号を参照されたい。

2　日本人は何を食べているのか

(1)　1日3食の人が81%

はじめに，人々が1日に何回食事をとり，何を食べているのかをみていく。平日の1日に平均何食とるかをたずねたところ，「3食」と答えた人が最も多く，81%を占める（**図1**）。

男女年層別にみると，「3食」は男女ともに高齢層ほど多くなる傾向があり，16～29歳では70%程度の一方，70歳以上では90%台に達する（**図2**）。1日2食以下という人はどの年層でも多くはないが，男性40代以下や女性16～29歳で3割前後となっていてそれ以外の層と比べて多い。このほか一人暮らしの男性で2食以下が特に多く，39%となっている。

(2)　主食としてのコメは健在か

日本人のコメ離れへの懸念が聞かれるようになって久しい。農林水産省の統計によれば，日本人の年間1人当たりのコメの消費量は1985年に75キロだったのが，2014年には55キロまで落ち込んでいる[1)]。日本人にとって，コメはもはや主食とは言えないのだろうか。

ごはんやパンといった主食をどの程度食べるか，「まったく食べない」から「毎日3回以上」まで7段階でたずねたところ，ごはんについては毎日2回食べるという人が半数で最も多い（**図3**）。「毎日1回」から「毎日3回以上」までを合わせると，『毎日』ごはんを食べているという人は90%に達する[2)]。一方，パンについては，『毎日』は合わせて39%で，ごはんと比べてかなり少ない。

図1　平日の食事の回数（全体）

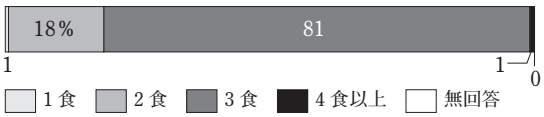


図2　平日の食事の回数（男女・男女年層別）

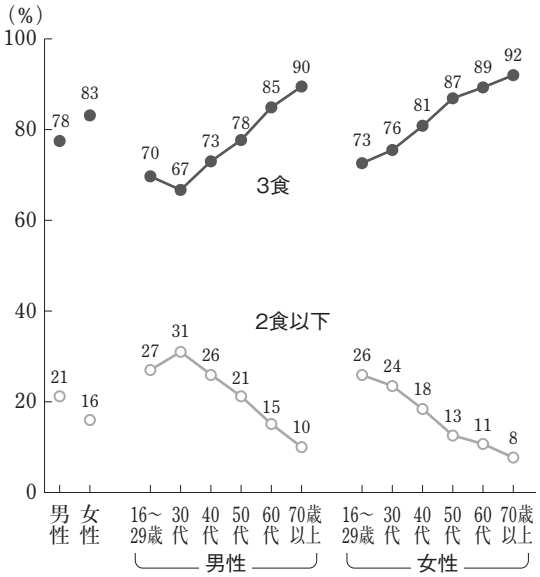
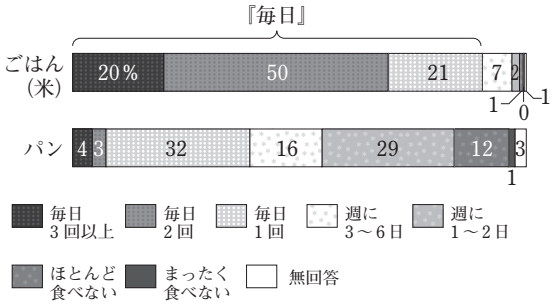
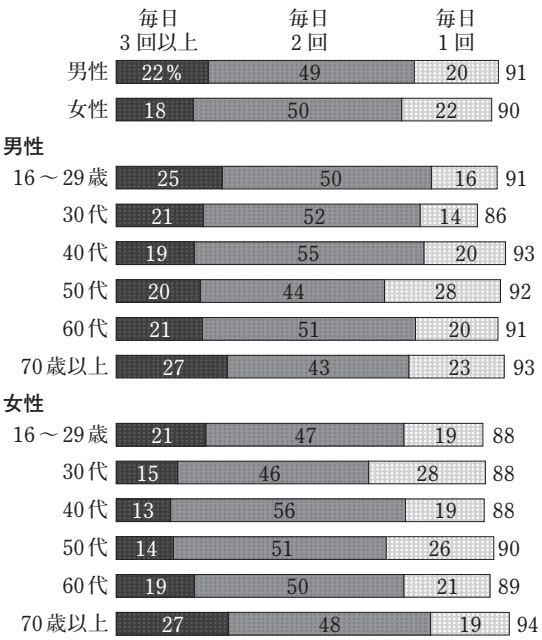


図３　食べる頻度　ごはん・パン（全体）



男女年層別にみると，「毎日3回以上」ごはんを食べている人は，男女ともにどの年層でも3割未満で多くはないが，『毎日』という人は80％台から90％台に上る（**図4**）。3食ともごはん，という人は多くはないものの，日本人にとってコメは依然として食事の中心になっていると言える。

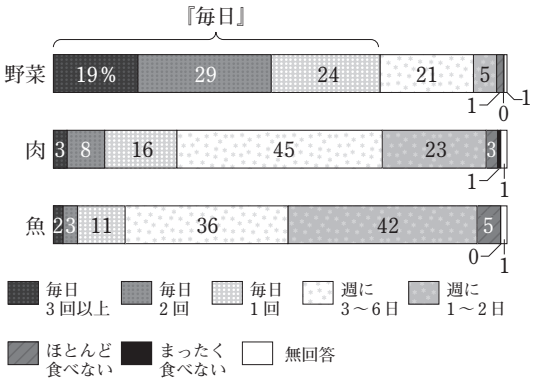
図４　食べる頻度　ごはん『毎日』（男女・男女年層別）



(3) 所得で異なる野菜や肉の摂取頻度

今回の調査では，野菜や肉，魚をどの程度食べているかについてもたずねている。野菜については，合わせて72％が『毎日』食べていて，多くの人が1日に1回は野菜をとっている（**図5**）。肉は「週に3～6日」が45％を占め，『毎日』という人は合わせて27％である。魚を『毎日』食べている人は合わせて16％となっていて，肉と比べて食べる頻度が低い。国民1人1日当たりの魚介類の摂取量は，2000年では90グラム台となっていて，肉類の70グラム台を上回っていた[3)]。しかし，2014年には魚介類がおよそ70グラムまで減少したのに対し，肉類は90グラム近くにまで達している。今や魚よりも肉が多く食べられるようになっており，今回の調査結果もこれを裏づけている。

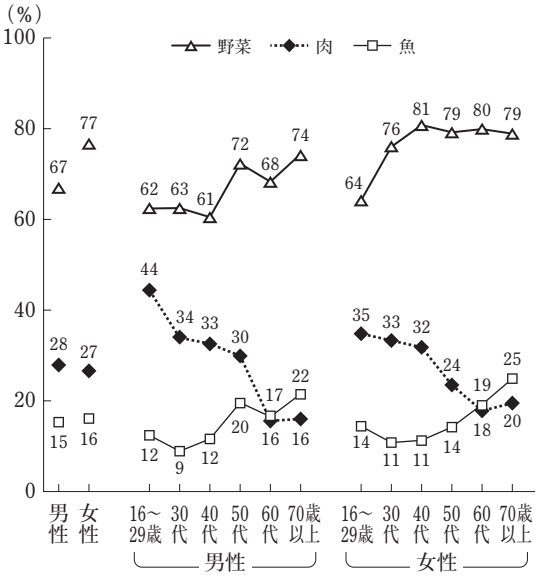
図５　食べる頻度　野菜・肉・魚（全体）



男女別にみると，野菜を『毎日』食べている人は，女性77％で，男性の67％を上回る（**図6**）。男女年層別にみると，女性40代以上で80％前後に上る一方で，男性40代以下と女性16～29歳では60％台と全体の中では少ない。

肉については，男女ともに若年層ほど『毎日』食べている割合が高く，特に男性16～29

図６　食べる頻度　野菜・肉・魚
『毎日（１回＋２回＋３回以上）』（男女・男女年層別）



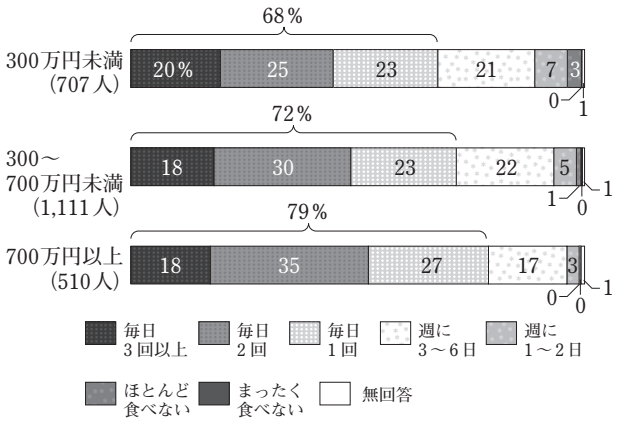
歳では44％に上る。

魚を『毎日』食べている人は，ほとんどの年層で10％台から20％台にとどまる。全体の中で多いのは，男女ともに70歳以上だが，いずれも3割にはとどかない。

それでは，所得の多寡によってこうした食品を食べる頻度に違いはあるのだろうか。世帯年収を300万円未満，300～700万円未満，700万円以上の3つに分けてみると，野菜を『毎日』食べている人は年収が700万円以上では79％なのに対し，300～700万円未満では72％，そして300万円未満では68％となっていて，年収が低いほど少なくなる傾向がある（**図7**）。

肉については，『毎日』食べている人が3割未満にとどまるので，「週に3～6日」まで含めて『週に3日以上』というくくりでみていく。年収が700万円以上の人で肉を『週に3日以上』食べているのは81％なのに対し，300～700万円未満では76％，さらに300万円未満では61％となっていて，年収が低いほど少なくなる（**図8**）。

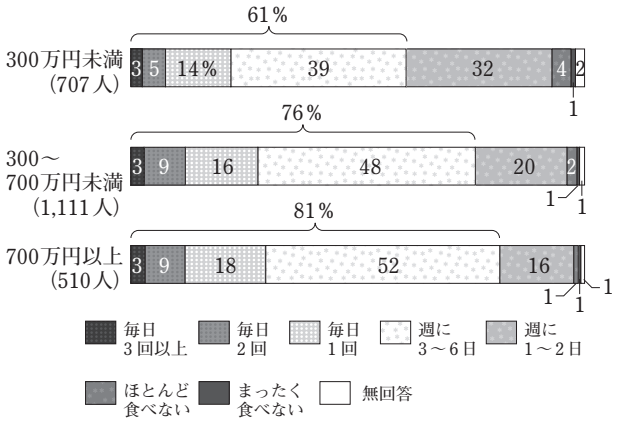
図７　食べる頻度　野菜（世帯年収別）



なお魚については，収入による違いはみられなかった。

厚生労働省の「国民健康・栄養調査」[4] でも，世帯収入が高い人で野菜や肉が多く摂取されていて，今回の調査と同じ傾向を示している。2014年4月に8％に引き上げられた消費税や原材料高騰による食品の値上げに伴って，多くの家庭で家計が圧迫されるなか，所得の低い家庭で野菜や肉を買い控える傾向が調査結果に表れているのではないだろうか。

図８　食べる頻度　肉（世帯年収別）

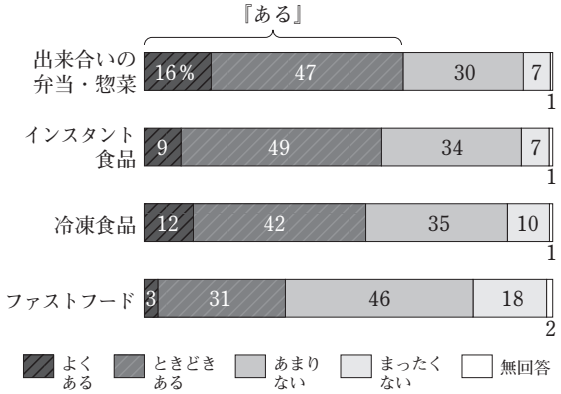


(4) 忙しい現代人を支える“中食”

コンビニやスーパーなどで購入できる出来合いの弁当や惣菜のことを“中食”という。こうした“中食”をはじめとする加工食品は，今や飲食料の消費額全体の50%を占めるまでになっている[5)]。

今回の調査では出来合いの弁当をはじめ，ファストフードやインスタント食品，冷凍食品などの加工食品の4つについて，それぞれ食べたり飲んだりすることがどの程度あるかをたずねた。「よくある」と「ときどきある」を合わせて『ある』という人の割合が最も高いのは，「出来合いの弁当・惣菜」の63%である（**図9**）。次いで「インスタント食品」58%，「冷凍食品」54%となっていて，いずれも半数を超えている。

図 9　加工食品の摂取頻度（全体）



男女年層別にみると，こうした加工食品を食べたり飲んだりすることが『ある』人は，男女ともに若年層ほど多い傾向がある（**図10**）。特に「ファストフード」はこの傾向が顕著で，男女ともに16～29歳では『ある』が60%台に上る一方，60代以上では10%台まで落ち込む。

今回の調査で利用しているという人が最も多かった「出来合いの弁当・惣菜」について，さらに詳しくみていく。食べることが『ある』という人の割合を家族形態別にみると，一人暮らしの男性で78%に上り，それ以外の層より多い（**表2**）。また，1週間の労働時間別に

図 10　加工食品の摂取頻度
『ある（よく+ときどき）』（男女年層別）

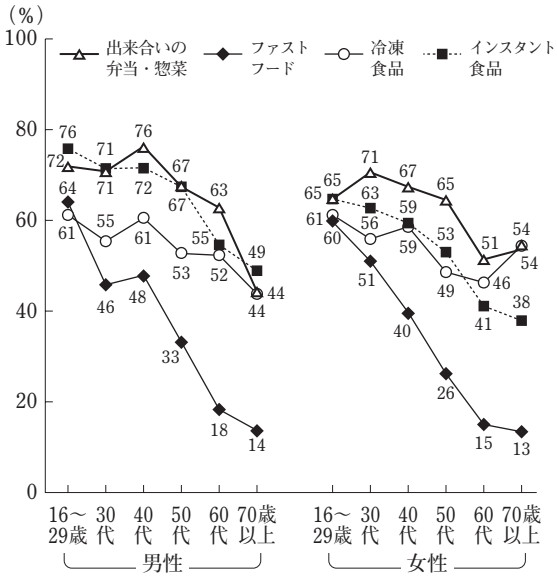


表 2　出来合いの弁当・惣菜の摂取頻度
『ある（よく+ときどき）』
（家族形態・1 週間の労働時間　男女別）

（%）

				『ある』（よく+ときどき）
全　体			2,484人	63
家族形態	男性	家族と同居	1,033人	63
		一人暮らし	131人	78
	女性	家族と同居	1,157人	62
		一人暮らし	123人	60
1 週間の労働時間	男性	男性・50 時間以上	325人	75
		男性・35 ～ 50 時間未満	393人	68
		男性・35 時間未満	139人	63
		男性・無職	319人	54
	女性	女性・35 時間以上	402人	73
		女性・35 時間未満	340人	62
		女性・無職	544人	54

※表中の濃い網掛けは，全体の中で統計的に高いことを示し，薄い網掛けは低いことを示す（信頼度 95%）
※女性については，1 週間の労働時間が 50 時間以上の人は 79 人と少ないため，35 時間以上でまとめて分析している

みると，男女ともに労働時間が長い人ほど『ある』という人の割合も高くなる。

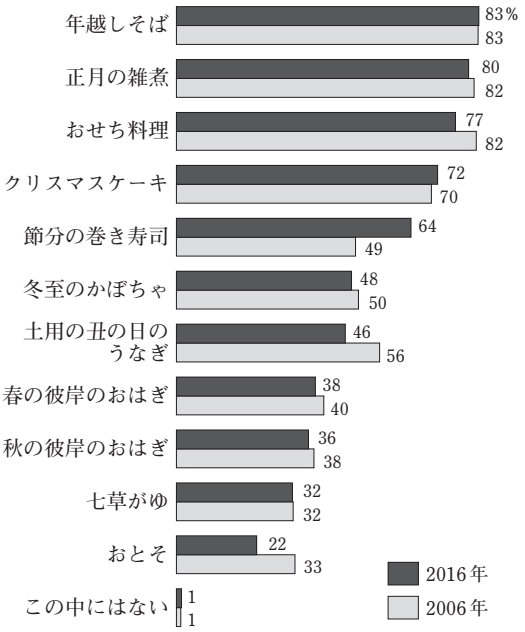
今後，共働きや単身世帯がさらに増加すると，“中食”などの加工食品の消費はますます増えていくだろう。“中食”を利用することへの後ろめたさが減少しているという調査結果もある[6)]。日本人の食卓における“中食”の存在感は，この先も増していくことが考えられる。

(5) 時代とともに変わる行事食

よく食べられている年末年始の行事食

日本には古くから，季節ごとに恒例の行事があり，それは食と結びついている。行事食は，今の日本人の食習慣としてどの程度受け継がれているのだろうか。「最近1年間に食べたり，飲んだりしたもの」があるか，**図11**の11の選択肢を示して複数回答で選んでもらった。

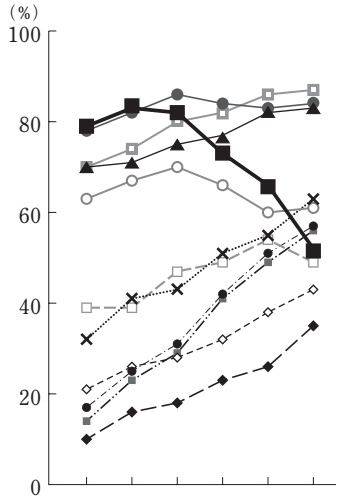
図 11　行事食を食べたか（複数回答，全体）



最も多いのは「年越しそば」（83%）で，「正月の雑煮」（80%），「おせち料理」（77%）と年末年始の行事食が上位に並んだ。

年層別にみると，「正月の雑煮」や「おせち料理」など多くの行事食は，高年になるほど多い傾向がみられる（**図12**）。一方で，「クリスマスケーキ」は傾向が異なり，40代以下で多く，60代以上で少ない。

図 12　行事食を食べたか（複数回答，年層別）



	16～29歳	30代	40代	50代	60代	70歳以上
年越しそば	78	82	86	84	83	84
正月の雑煮	70	74	80	82	86	87
おせち料理	70	71	75	77	82	83
クリスマスケーキ	79	83	82	73	66	52
節分の巻き寿司	63	67	70	66	60	61
冬至のかぼちゃ	32	41	43	51	55	63
土用の丑の日のうなぎ	39	39	47	49	54	49
春の彼岸のおはぎ	17	25	31	42	51	57
秋の彼岸のおはぎ	14	23	29	41	49	56
七草がゆ	21	26	28	32	38	43
おとそ	10	16	18	23	26	35

家族と同居している人で多い行事食を食べる人

家族形態別にみると，11の行事食のうち9つで，家族と同居している人のほうが，一人暮らしの人よりも食べたという人は多い**(表3)**。

さらに，家族と同居している人のうち，高校生以下の子どもが「いる」人と「いない」人に分けてみると，「クリスマスケーキ」「節分の巻き寿司」「年越しそば」の3つでは，「いる」人のほうが，「いない」人よりも多く食べている**(表4)**。特に，その差が大きいのは「クリスマスケーキ」と「節分の巻き寿司」である。子どもとともに家族で囲む食卓で，これらの行事食が食べられている様子がうかがえる。

表3　行事食を食べたか
（複数回答，家族形態別）

（%）	家族と同居（2,190人）		一人暮らし（254人）
年越しそば	84	>	73
正月の雑煮	82	>	68
おせち料理	78	>	65
クリスマスケーキ	75	>	45
節分の巻き寿司	67	>	43
冬至のかぼちゃ	50	>	34
土用の丑の日のうなぎ	48	>	36
春の彼岸のおはぎ	39	−	36
秋の彼岸のおはぎ	37	−	34
七草がゆ	33	>	24
おとそ	23	>	17

表4　行事食を食べたか
（複数回答，家族と同居している人で，高校生以下の子の有無別）

（%）	いる（631人）		いない（1,491人）
クリスマスケーキ	91	>	69
節分の巻き寿司	76	>	63
年越しそば	87	>	83

※表3・4の「<，>」は左右を比較して統計的に有意差があることを示す（信頼度95%）

「土用の丑の日のうなぎ」を食べる人が半数割れ

次に，2006年の結果と比較すると，減少したのは「土用の丑の日のうなぎ」（56%→46%）と「おせち料理」（82%→77%），「おとそ」（33%→22%）の3つである（図11）。

「土用の丑の日のうなぎ」は，16〜29歳を除くすべての年層で減少し，半数を割った。

この背景には，乱獲などによるうなぎの資源の減少で，価格が高騰していることがあるとみられる。ニホンウナギは，2014年に国際自然保護連合から「絶滅危惧種」に指定され，保護や管理が行われている。国内のうなぎの供給量は，2000年をピークに大きく減少し[7]，この間，うなぎのかば焼きの価格は約2倍に高騰した[8]。年に1度の行事食であっても，高価であるために購入をためらう人が増えているのではないだろうか。世帯年収別でみても，「土用の丑の日のうなぎ」を食べた人は，年収が700万円以上の人では56%であるが，300万円未満の人では41%と差があった。

一方で，2006年から増加したのは，「節分の巻き寿司」（49%→64%）である。「節分の巻き寿司」は，大阪が発祥とされ「恵方巻き」とも呼ばれている。地域別にみると，「近畿」は82%で，全体の中で高い。「北海道・東北」（41%→58%），「関東・甲信越」（35%→56%），「東海・北陸」（47%→66%），「中国・四国・九州」（55%→68%）と，近畿を除くすべての地域で，2006年から増加し，全国すべての地域で5割から6割台に及んだ。

「節分の巻き寿司」が全国に浸透してきた背景には，今や全国のスーパーやコンビニで購入できる手軽さと，テレビや雑誌，インターネット上のレシピサイトなど，さまざまなメ

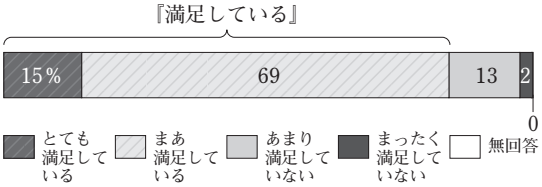
ディアで広く取り上げられるようになったことで，食の「イベント」として，家庭に定着してきたことなどが考えられる。

3 食生活に対する満足度

(1) 食生活に『満足している』人は84%

日本人が何を食べているのかをみてきたが，ここからは食生活の満足度について分析する。今の自分の食生活に『満足している』という人は，「とても」と「まあ」を合わせて84%を占める **(図13)**。

図 13　食生活の満足度（全体）



男女年層別にみると，『満足している』という人の割合は，どの年層でもおしなべて高く，ほとんどの年層で80%を超えている。

(2) 食べているものや孤食の頻度で異なる，食生活の満足度

多くの人が食生活に満足しているが，食事の回数や内容，さらに家族と一緒に食べているかによって，満足度に違いはあるのだろうか。

食べている食品の頻度別にみると，ごはん，肉，魚，野菜については，毎日食べている人のほうが頻度が低い人よりも食生活に満足している割合が高い **(表5)**。逆に加工食品では，摂取頻度が高い人で満足度が低い。

食事の回数別にみると，1日3食の人のほうが2食以下よりも満足度が高い。さらに，一人で食事をする「孤食」の頻度が低い人や世

表 5　食生活の満足度『満足している（とても＋まあ）』
（食べている食品・加工食品の摂取頻度・食事回数・食事形態・世帯収入別）

	食べている食品の摂取頻度														
	ごはん（米）			パン			肉			魚			野菜		
	週に数日以下（226人）		毎日（2,245人）	週に数日以下（1,451人）		毎日（970人）	週に1～2日以下（647人）		毎日（676人）	週に1～2日以下（1,166人）		毎日（391人）	週に1～2日以下（165人）		毎日（1,790人）
（%）	73	＜	85	84	－	84	80	＜	85	80	＜	90	67	＜	88

	加工食品の摂取頻度								
	出来合いの弁当・惣菜			ファストフード			インスタント食品		
	ない（あまり＋まったく）（897人）		ある（よく＋ときどき）（1,572人）	ない（あまり＋まったく）（1,587人）		ある（よく＋ときどき）（859人）	ない（あまり＋まったく）（1,019人）		ある（よく＋ときどき）（1,443人）
（%）	90	＞	81	87	＞	78	88	＞	81

	1日の食事回数			食事形態						世帯収入		
				1日全食孤食の頻度			家族との夕食頻度（該当者＝家族と住んでいる人）					
	2食以下（460人）		3食（2,000人）	ほとんどない（1,632人）		毎日（219人）	月に2日以下（310人）		毎日（825人）	300万円未満（707人）		700万円以上（510人）
（%）	74	＜	86	90	＞	67	72	＜	94	83	＜	87

※表中の「＜，＞」は左右を比較して統計的に有意差があることを示す（信頼度95%）
※「家族との夕食頻度」の該当者は，家族と住んでいる人

帯収入が多い人で満足度が高くなっている。

満足度に特に違いが表れているのは，野菜の摂取，孤食や家族と夕食をとる頻度で，高い人と低い人の間にはそれぞれ20％以上もの差がある。

全体の8割以上もの人が食生活に満足しているが，なかでも野菜を含むバランスの良い食事をとっている人や，家族などと一緒に食卓を囲んでいる人で満足度が高いことがわかる。

4 食をめぐる価値観

(1) 年収が低い人，子育て世代で強い食費の負担感

ここからは，食べるものを選ぶ際の基準となる食をめぐる価値観についてみていく。まず食生活とお金に関する意識を探るため，A.食費にお金をかけることを惜しまないか，B.食費が家計の負担になっているか，の2点についてたずねた（**図14**）。A.食費にお金をかけるのを惜しまないかどうかについては，「どちらかといえば」を含め『そう思う』（49％）と『そう思わない』（49％）が半々に割れている。

一方，B.食費が家計の負担になっているかどうかについては，「どちらかといえば」を含め，『そう思わない』という人が51％で，『そう思う』，つまり食費は家計の負担になっているという人の46％を上回っている。

総務省の家計調査によると，2人以上の世帯では，家計の消費支出に占める食料費の割合をさすエンゲル係数が2005年度の年平均22.9％から上昇傾向に転じ，2016年7月時点では26.2％となっている。エンゲル係数は所得の低い人ほど高くなるとされるが，経済状況によって，食費の負担感はどの程度異なるのだろうか。

世帯年収を300万円未満，300～700万円未満，700万円以上に分けてみると（**図15**），食費が家計の負担になっているかとの問いに「そう思う」と答えた人は，世帯年収700万円以上では10％であるのに対し，300～700万円未満で12％，300万円未満では17％と年収が

図 14　食費に対する意識（全体）

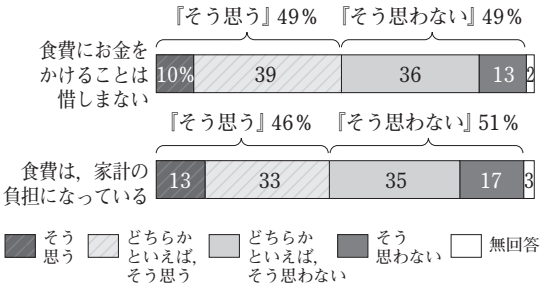
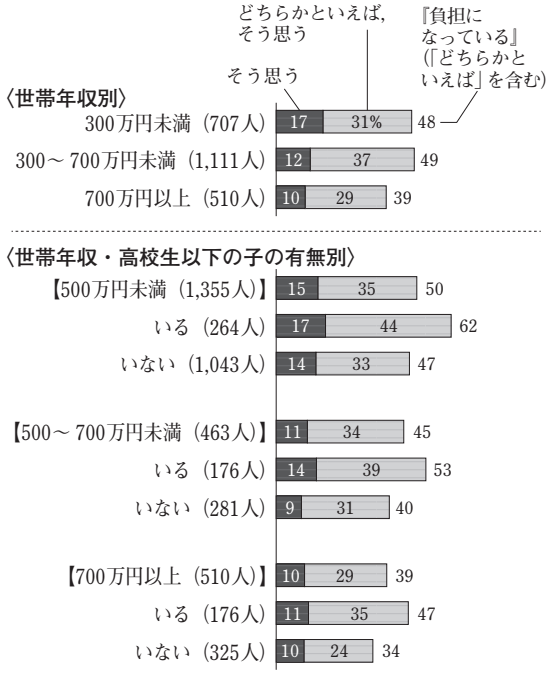


図 15　食費が家計の負担になっているか
（世帯年収・高校生以下の子の有無別）



低いほど多くなる傾向がある。「どちらかといえば」を含め『負担になっている』という人は，世帯年収700万円以上の人では39％であるが，700万円未満の層では約半数を占める。

さらに，子どもの有無と食費の負担感との関係をみるため，同程度の世帯年収の人を高校生以下の子どもが「いる」人と「いない」人に分けて比較した。ここでは各層の分母が100人を超えるよう，世帯年収を500万円未満，500～700万円未満，700万円以上の3つに再分類したが，食費が『負担になっている』という人は，3つの年収レベルすべてで「いる」人のほうが多く，年収が同程度でも子どもがいることで負担感が増す傾向がみられた。特に3つの年収レベルのうち最も年収が低い500万円未満の世帯で，かつ高校生以下の子どもがいる人では『負担になっている』が62％に上る。

一方，年層別に食費が家計の『負担になっている』という人をみると（**図16**），60代以上の高齢層では40％程度にとどまるのに対し，40代では52％と高い。年層別に世帯年収をみると（**図17**），40・50代では他の年層に比べ300万円未満の世帯が少なく，700万円以上の高年収層が多い。にもかかわらず，40代で食費を負担に感じる人が多い結果となっている

図 16　食費は家計の『負担になっている』
（「どちらかといえば」を含む，年層別）

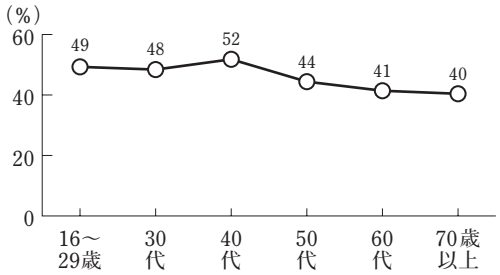
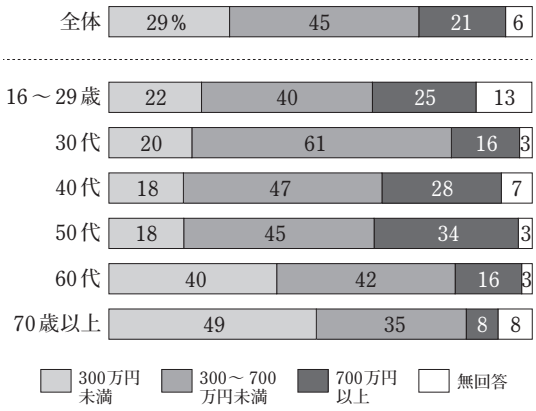


図 17　世帯年収（全体・年層別）



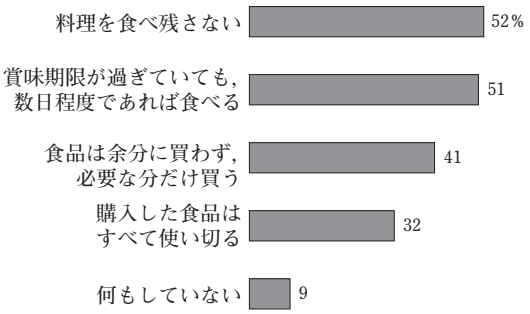
が，40代は高校生以下の子どもがいる人が65％と特に多い。高校生以下の子どもがいる40代（分母＝294人）では食費は家計の『負担』と感じる人が55％と，いない40代（45％，分母＝152人）と比べ顕著に多く，子育て中の人が多いことが40代の負担感の強さの背景にあると考えられる。

（2）食品を無駄なく活用しているか

売れ残りや食べ残しなどによって，まだ食べられるのに捨てられている食品，いわゆる「食品ロス」の国内での発生量は，2013年度の農林水産省の推計で年間632万トンに上る。食品の無駄削減は，日本のみならず先進国共通の課題であり，食品業界では一定期間保存できる加工食品の賞味期限の表示を日付単位から月単位に改めるなどの取り組みが進められている。では，個人レベルでみるとどんな配慮がなされているのだろうか。

図18の4つの選択肢から複数回答で選んでもらった結果，「料理を食べ残さない」（52％）と「賞味期限が過ぎていても，数日程度であれば食べる」（51％）という人が半数を超えた。

図 18　食品の無駄を出さない配慮（複数回答，全体）



配慮を「何もしていない」という人は9%である。

食品の無駄を出さない配慮をしているかどうかは，ふだん自宅で料理をしているかどうか[9]で違いが出る（**表6**）。配慮を「何もしていない」という人は，男女とも『料理をしている（いつも＋たいてい＋ときどき）』人では10%に満たないが，料理をしていない人の約20%に上る。また「料理を食べ残さない」心がけは，男女，あるいは料理をしているかどうかにかかわらず約半数が行っているものの，それ以外の3項目については，男女とも料理をしている人のほうがよく行っている。料理を通じ，ふだんから食材を扱っていることが，食品の無駄を出さないことへの意識の高さにつながっているのではないだろうか。

表 6　食品の無駄を出さない配慮
（複数回答，男女・料理をしているか別）

（%）	男性 料理を『している』（594 人）		男性 料理をしていない（584 人）	女性 料理を『している』（1,193 人）		女性 料理をしていない（100 人）
料理を食べ残さない	54	−	53	52	−	49
賞味期限が過ぎていても，数日程度であれば食べる	51	＞	37	60	＞	39
食品は余分に買わず，必要な分だけ買う	50	＞	29	45	＞	28
購入した食品はすべて使い切る	33	＞	16	41	＞	17
何もしていない	7	＜	21	4	＜	19

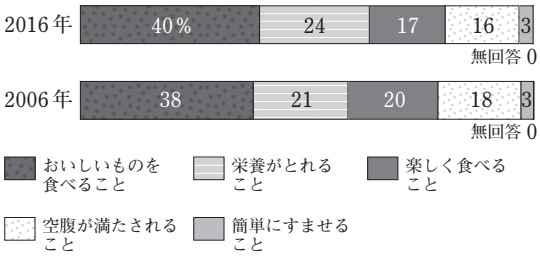
※表中の「＜，＞」は左右を比較して統計的に有意差があることを示す（信頼度 95%）

(3) 食生活で重視すること

食事は「おいしいものを食べる」

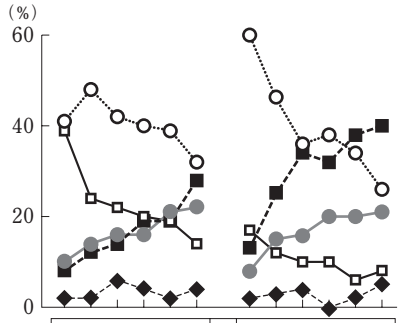
食事をするとき，いちばん重視することを**図19**の5つの選択肢から選んでもらった。最も多いのは「おいしいものを食べること」の40%で，次に「栄養がとれること」が24%である。「楽しく食べること」と「空腹が満たされること」はともに20%弱，「簡単にすませること」は3%だった。2006年と比較すると，「栄養がとれること」がやや増え，「楽しく食べる」がやや減ったものの，目立った変化はみられない。

図 19　食事で重視すること（全体）



2016年の調査結果を男女年層別にみると（**図20**），若い人ほど「おいしいものを食べること」を重んじる傾向がある一方，高齢になるほど「栄養がとれること」「楽しく食べること」が重視されている。また同じ若者でも女性16〜29歳では「おいしいものを食べること」を重んじる人が60%と際立って多いの

図 20　食事で重視すること（男女年層別）



	男性 16～29歳	男性 30代	男性 40代	男性 50代	男性 60代	男性 70歳以上	女性 16～29歳	女性 30代	女性 40代	女性 50代	女性 60代	女性 70歳以上
おいしいものを食べること	41	48	42	40	39	32	60	46	36	38	34	26
栄養がとれること	8	12	14	19	19	28	13	25	34	32	38	40
楽しく食べること	10	14	16	16	21	22	8	15	16	20	20	21
空腹が満たされること	39	24	22	20	19	14	17	12	10	10	6	8
簡単にすませること	2	2	6	4	2	4	2	3	4	0	2	5

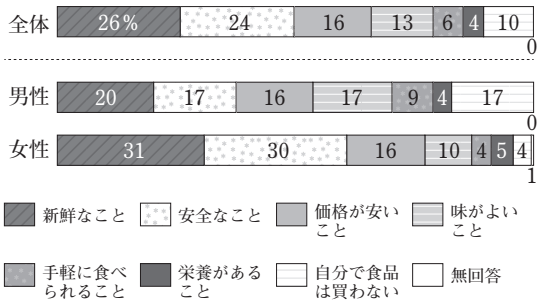
に対し，男性16～29歳では「おいしいものを食べること」（41％）と同様に「空腹が満たされること」（39％）が重視されている。

食品は「新鮮」と「安全」重視

食品を選ぶ基準が何かを探るため，食品を買う際，「新鮮なこと」「安全なこと」「価格が安いこと」「味がよいこと」「手軽に食べられること」「栄養があること」の6つのうち，何を最も重視するかをたずねた（**図21**）。全体では「新鮮」（26％）と「安全」（24％）が並んで多く，少し離れて「価格」が16％，「味」は13％である。

男女でみると，男性ではそもそも「自分で食品は買わない」という人が17％いて，最も重視することについては「新鮮」「安全」「価格」「味」であまり差がない。一方，女性では，「安全」（30％）が「新鮮」（31％）と並んで多い。

図 21　食品を買うとき重視すること（全体・男女別）

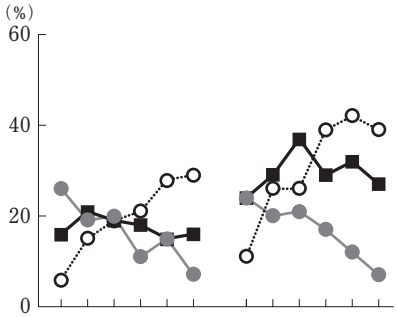


次に多いのは「価格」の16％で，「味」重視の人は10％にとどまる。

「新鮮」「安全」「価格」の上位3項目について男女年層別にみると（**図22**），男女とも若い人ほど「価格」を重視する傾向がある。「安全」最重視の人は女性40代で37％と目立って多い。また，女性50代以上では「新鮮」を最も重視する人が40％前後に上る。

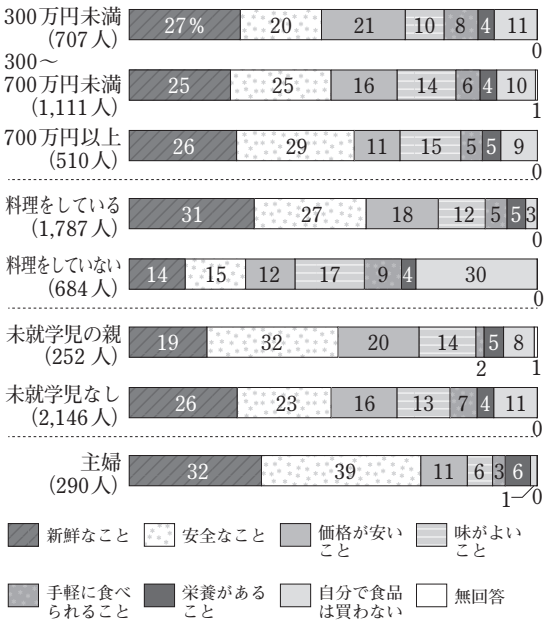
次に世帯年収別でみると（**図23**），「安全」を最も重視する人は，世帯年収700万円以上

図 22　食品を買うとき重視すること
「新鮮なこと」「安全なこと」「価格が安いこと」
（男女年層別）



	男性 16～29歳	男性 30代	男性 40代	男性 50代	男性 60代	男性 70歳以上	女性 16～29歳	女性 30代	女性 40代	女性 50代	女性 60代	女性 70歳以上
新鮮なこと	6	15	19	21	28	29	11	26	26	39	42	39
安全なこと	16	21	19	18	15	16	24	29	37	29	32	27
価格が安いこと	26	19	20	11	15	7	24	20	21	17	12	7

図 23　食品を買うとき重視すること
（世帯年収・料理をしているか・未就学児の有無別，「主婦」）



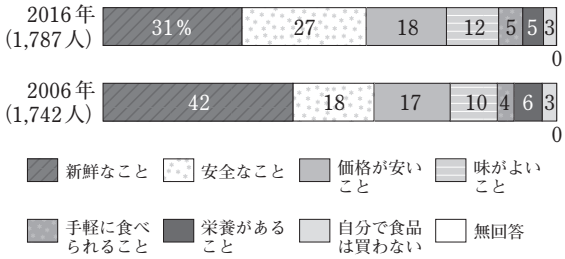
の人で29％と，高年収の人で多い。一方，「価格」を最も重視する人の割合は，700万円以上で11％であるのに対し，300万円未満では21％と，年収が少ない人のほうが高い。世帯年収300万円を境に，300万円以上の人では「価格」を重視する人より「安全」を重視する人のほうが多いが，300万円未満の人では「価格」を重視する人が「安全」を重視する人と同程度いる。

ほかにどんな人で安全志向が高いのかをみると（図23），ふだん自宅で『料理をしている（いつも＋たいてい＋ときどき）』人では「安全」を重視する人が27％で，料理をしていない人（15％）より多い。また，未就学児の親で「安全」を重視する人は32％，主婦ではさらに多く39％で，両者とも「新鮮なこと」よりも「安全」を重視する人のほうが多い。

高まる「安全志向」

食品を買うとき重視することについての質問は，2006年は『料理をしている（いつも＋たいてい＋ときどき）』と答えた人にだけ行った。このため，2016年の結果の分母を『料理をしている』人にしたうえで2006年の結果と比べると（**図24**），「新鮮」が42％から31％に減る一方，「安全」が18％から27％に増えていた。2006年は「新鮮」が最も多く，「安全」と「価格」は2番目に並んでいたが，2016年は「安全」志向の人が増え，「新鮮」と並んで最も重視されるようになっている。食品の産地や賞味期限の偽装が繰り返し問題となり，使用期限切れの食肉が流通する事件が起きるなど，食の安全を脅かす事件が後を絶たないことが，安全志向の高まりの背景にあるのではないだろうか。

図 24　食品を買うとき重視すること
（該当者＝『料理をしている（いつも＋たいてい＋ときどき）』人）



（4）国産志向と食のグローバル化への不安

安全への信頼が支える国産志向

生鮮食品の売り場に価格の高い「国産」と価格の低い「外国産」が並んでいた場合，どちらを選ぶのかをたずねた。たとえ価格が高くても「国産を選ぶ」という人は33％で，「どちらかといえば」を合わせると，『国産志向』

が85％を占める（**図25**）。

『国産志向』は，男性（82％）より女性（88％）のほうが多い（**図26**）。年層別では高齢層ほど割合が高まり，60代で91％，70歳以上では95％に達する。一方，世帯年収別でみると，年収の多い少ないにかかわらず，すべての層で80％超が『国産志向』である。

図 25　国産か外国産か（全体）

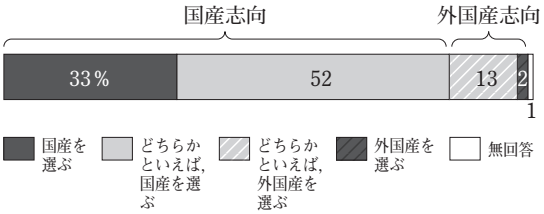
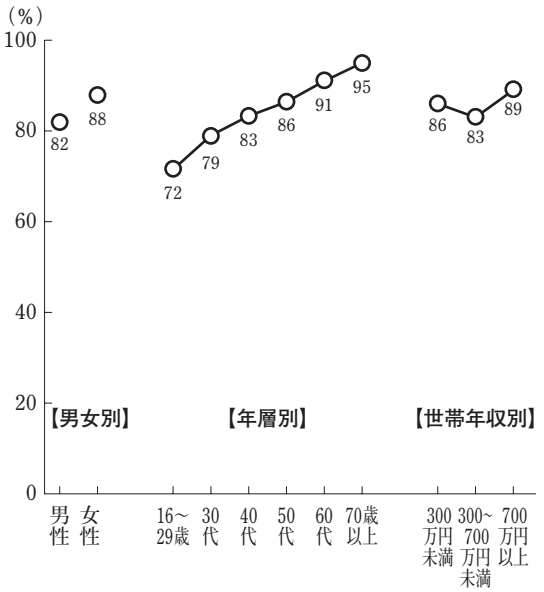
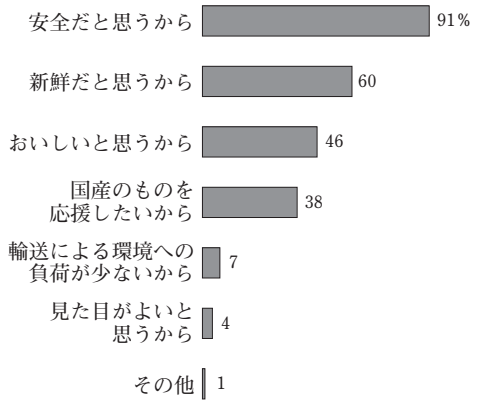


図 26　国産か外国産か
『国産志向』「どちらかといえば」を含む
（男女・年層・世帯年収別）



なぜ価格が高くても国産なのだろうか。国産を選ぶと答えた人に，**図27**の6つの理由から複数回答で選んでもらった結果，「新鮮だと思うから」（60％）や「おいしいと思うから」

図 27　国産を選ぶ理由
（複数回答，該当者＝『国産志向』の 2,109 人）



（46％）をおさえ「安全だと思うから」が最も多く91％に上った。安全性に対する信頼が，強い国産志向を支えていることをうかがわせる。

自給率は「高めたほうがよい」，輸入食品への依存には不安

多くの人が国産志向であるものの，日本の食料自給率は長期低下傾向にある。質問で日本の食料自給率が50年前の1966年度の68％から2014年度には39％まで落ち込んでいること[10]を示したうえで，今後についてどう考えるかたずねたところ，「高めたほうがよい」という人が76％に上った。「今の水準でよい」は20％，「下がってもかまわない」は3％にとどまった。

また，日本が多くの食品を外国から輸入していることについて「とても不安がある」という人は18％で，「ある程度」を合わせると77％が不安を感じている（**図28**）。不安を感じる人の理由で最も多かったのは，「国内の食料の生産力が低下するおそれがあるから」で50％だった（**表7**）。

図 28　食料輸入依存への不安（全体）

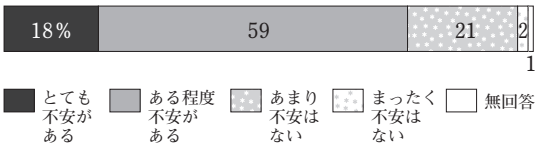


表 7　不安を感じる理由
（該当者＝食料輸入依存に『不安がある（とても＋ある程度）』と答えた 1,912 人）

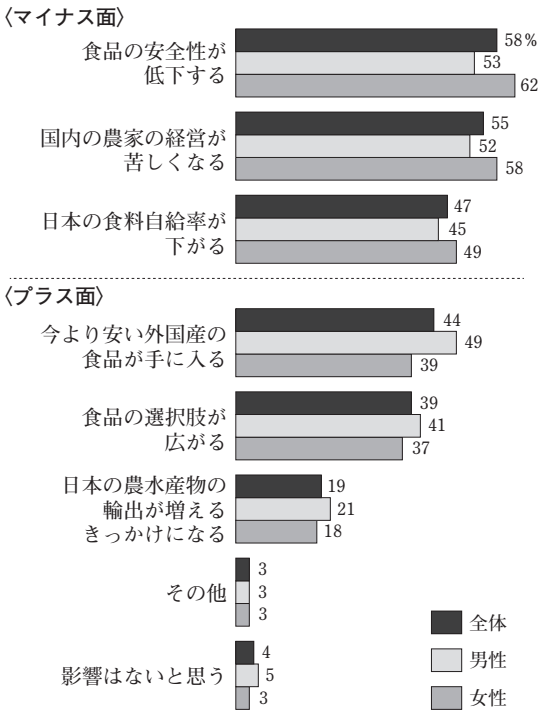
国内の食料の生産力が低下するおそれがあるから	50%
国際情勢の変化により，食料の輸入量が減ったり，止まったりするおそれがあるから	31
干ばつなどの異常気象により，世界的に食料の生産量が減るおそれがあるから	13
世界的な人口増加で食料の需要が高まり，輸入量が減るおそれがあるから	6

TPP については期待よりも懸念

調査を実施する直前の2015年10月，日本やアメリカを含む12か国が農産物や食品など幅広い品目で関税を撤廃，削減するTPP＝環太平洋パートナーシップ協定について，大筋で合意した[11)]。これを受けて，TPPが発効した場合，日本の食をめぐる環境にどんな影響が出ると思うか，プラス面とマイナス面を3つずつ示し複数回答で選んでもらった（**図29**）。多くの回答を集めたのは「食品の安全性が低下する」（58％）と「国内の農家の経営が苦しくなる」（55％）で，「日本の食料自給率が下がる」が47％で続く。これら上位3項目はいずれもマイナス面の影響で，さらなる輸入食品が流入することについては，期待よりも懸念のほうが大きい。

複数回答でプラス面，マイナス面どちらの影響を挙げたかで回答をまとめると，プラス，マイナス双方の影響を挙げた人が50％だった。マイナス面だけを挙げた人は29％で，プラス面だけを挙げた人は14％だった。

図 29　TPP の影響（複数回答，全体・男女別）



男女別にみると，女性では「食品の安全性が低下する」が62％で最も多く，2番目が「国内の農家の経営が苦しくなる」（58％），3番目が「日本の食料自給率が下がる」（49％）と上位3つすべてが懸念事項である。一方，男性では「食品の安全性が低下する」（53％），「国内の農家の経営が苦しくなる」（52％）といった負の側面だけでなく，「今より安い外国産の食品が手に入る」（49％）という経済的メリットへの期待を寄せる人も半数近くいる。

5　食生活とメディア

総務省の「通信利用動向調査」によれば，2015年末現在，スマートフォンを保有している人は53.1％で，初めて半数を超えた。ちょっ

とした「すきま時間」にスマートフォンで，SNSや動画を見るという光景は今やありふれたものになっている。ここでは，スマートフォンを含む携帯電話などのメディアと食との関係についてみていく。

(1) 夕食時の携帯電話とテレビ

若い女性の45%が夕食時にSNSを利用

ふだん自宅で夕食をとっているときに，携帯電話（以下，スマートフォンを含む）をどの程度使っているか，6つの項目についてたずねた（**図30**）。

「よくある」と「ときどきある」を合わせた『ある』は，どの選択肢も2割に満たない。「電話をかける，電話に出る」が16%で最も多く，「LINEやFacebook，InstagramなどのSNSを利用する」が14%，「情報を検索する」「メールのやりとりをする」がそれぞれ12%である。

また，6つの項目のうち，少なくとも1つは『ある』人，つまり，ふだん自宅で夕食時に携帯電話を使うことが『ある』人は31%だった。

年層別にみると，『ある』人は，16～29歳で54%と半数を超えており，若年ほど多い傾向がある。さらに男女年層別にみると，女性16～29歳で60%と目立って多い（**図31**）。

では，若い人たちは，携帯電話でどのようなことをしているのだろうか（**図32**）。まず目につくのは「SNS」である。男性16～29歳で34%，女性16～29歳では45%と半数近くとなっている。

次に，「情報検索」は，女性16～29歳で

図30　夕食時の携帯電話利用（全体）

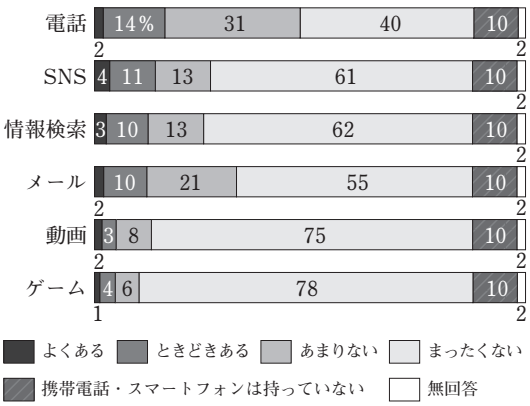


図31　夕食時の携帯電話利用
6つのうち少なくとも1つ『ある』人
（男女・男女年層別）

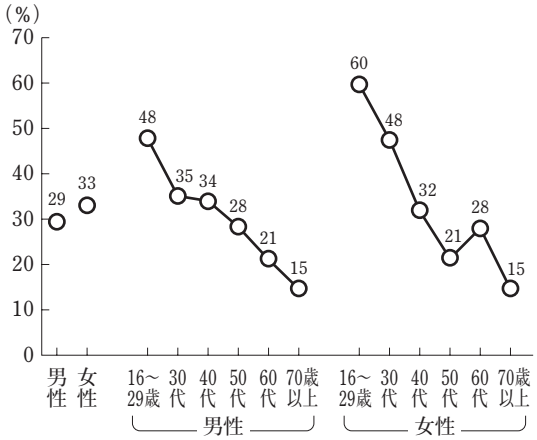
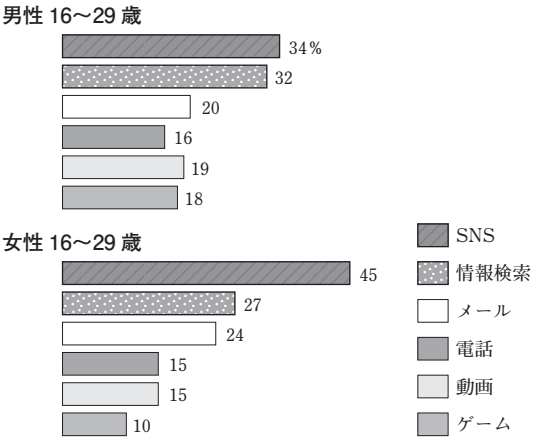


図32　夕食時の携帯電話利用『ある』
（男女16～29歳）



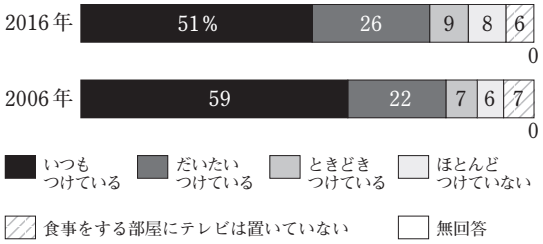
27％と，男性16～29歳（32％）と同程度である。若い男性で，「SNS」と「情報検索」が同程度の割合であるのに対し，若い女性では，「情報検索」よりも「SNS」が多いという特徴がある。若い女性の半数近くが，夕食のときも食卓にスマートフォンを置いて，SNSで友人らとコミュニケーションをとっていることがわかる。

夕食時にテレビは８割

若い人たちを中心に，食卓で携帯電話が利用されている実態がみえてきたが，一方で，これまで食卓の「主役」のメディアと言われてきたテレビはどうなっているのだろうか。

自宅で夕食時にテレビをつけているかをたずねたところ，『つけている（いつも＋だいたい）』という人は77％である**（図33）**。

図 33　夕食時，テレビをつけているか（全体）



2006年と比較すると，『つけている』は81％からやや減少しているものの，依然として8割近くの多数を占める。

年層別にみると，テレビを『つけている』人の割合は，どの年層においても7割以上を占めており，特に60代で83％と全体の中で多くなっている。

家族形態別にみると，テレビを『つけている』のは，家族と住んでいる人で77％，一人で住んでいる人では76％となっていて，家族形態による差はない。

夕食時のテレビ視聴は，多くの日本人にとって日常的な食卓風景だと言える。

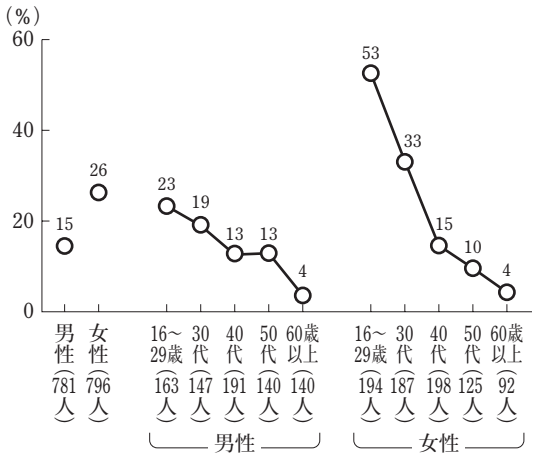
若い女性の半数が料理写真をSNSやブログに投稿

次に，インターネットを利用している人に，自分が食べた料理の写真をLINEやFacebook，InstagramなどのSNSやブログに投稿することがあるかをたずねたところ，「よくある」と「ときどきある」を合わせた『ある』は20％だった。

男女別にみると，『ある』は，女性で26％と，男性（15％）を上回る**（図34）**。男女年層別にみると，女性16～29歳では53％と，他の年層より突出して多い。

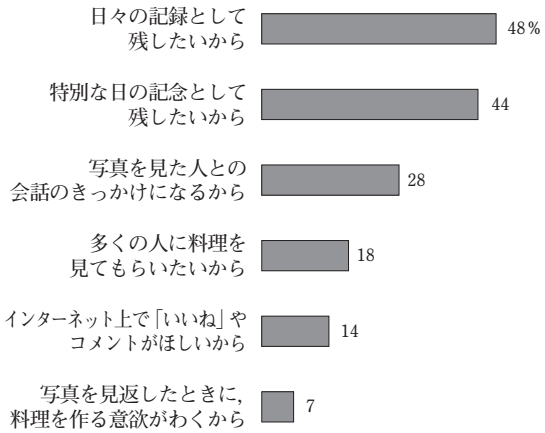
ここで，「自分が食べた料理の写真をSNSやブログに投稿することが『ある』」と答えた人に，その理由を6つの選択肢を示して複

図 34　料理の写真をSNSやブログに投稿することが『ある』
（該当者＝インターネットを利用している人，男女・男女年層別）



※女性60歳以上は，該当者が100人に満たないため参考値

図 35　投稿する理由
（複数回答，該当者＝料理の写真を SNS やブログに投稿することが『ある』322 人）



数回答で選んでもらった（**図35**）。

「日々の記録として残したいから」（48％）と「特別な日の記念として残したいから」（44％）が上位に並び，次に多いのが「写真を見た人との会話のきっかけになるから」（28％）である。「インターネット上で『いいね』やコメントがほしいから」は14％にとどまる。この結果からは，他者からの「いいね」などの反応がほしいというよりも，自分の記録のためという人が多いことがうかがえる。

前述のとおり，女性16～29歳ではSNSやブログへの投稿が突出して多いが，情報メディアが専門の武庫川女子大学の藤本憲一教授によれば，今の若い女性にとってSNSは「全人生を回想できる『記念アルバム』」であり，「自分のライフログ（日常生活記録）を日々新たに生成したいという焦がれるような欲求」があるという[12)]。

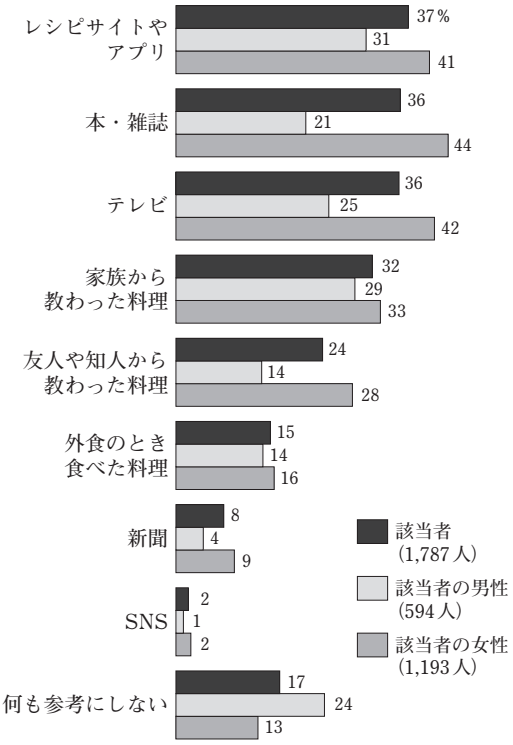
また，図20でみたとおり，女性16～29歳は，食事でいちばん重視することとして，「おいしいものを食べること」という人が，他の年層を引き離して多かった。おいしいものにこだわって食べる料理は，写真におさめて「アルバム」に残しておきたい，という若い女性の食の楽しみ方なのではないだろうか。

(2) 広がるネット上のレシピ利用

次に，『料理をしている（いつも＋たいてい＋ときどき）』と答えた人に，ふだん，何を参考に料理をしているか，8つの選択肢から複数回答で選んでもらった（**図36**）。

回答が割れるなか上位に並んだのは，「インターネット上のレシピサイトやアプリ」（37％），「料理の本・雑誌」（36％），「テレビ」（36％）である。次いで「家族から教わった料理」が32％，「友人や知人から教わった料理」が24％などとなっている。「何も参考にしない」は17％だった。

図 36　料理の参考にするもの
（複数回答，該当者＝『料理をしている』人，男女別）



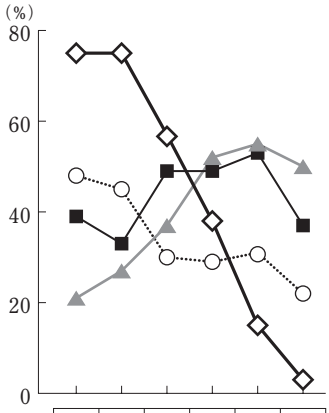
男女別にみると，女性は「レシピサイトやアプリ」「本・雑誌」「テレビ」「友人や知人から教わった料理」「新聞」と8つの選択肢のうち5つで男性を上回る。「何も参考にしない」は，女性（13％）より男性（24％）のほうが多い。

『料理をしている』と答えた人が多かった女性（分母1,193人）を年層別にみると，「レシピサイトやアプリ」は女性16～29歳と30代で75％と，最も参考にされる情報源になっている（**図37**）。一方で，「本・雑誌」は女性40～60代で約50％，「テレビ」は女性50代以上で50％台となっていて，ともに女性高年層で多い。

月間のべ約6,000万人が利用するというインターネット上のレシピ共有サイト「クックパッド」[13] をはじめ，今やレシピの情報はインターネット上にあふれている。調査の結果をみると，女性の40代までは，こうしたインターネット上のレシピを参考にする人が多数を占める一方で，女性の50代と60代では，「本・雑誌」「テレビ」といった従来のメディアをより情報源にしていることがわかる。

また，女性16～29歳で「家族から教わった料理」は48％で，「レシピサイトやアプリ」（75％）に次いで多かった。食の情報がメディアにあふれる現在でも，家庭で母親などから教わる料理は依然，頼りにされているようである。

図 37　料理の参考にするもの
（複数回答，該当者＝『料理をしている』女性，年層別）



	16～29歳（145人）	30代（192人）	40代（228人）	50代（180人）	60代（210人）	70歳以上（238人）
レシピサイトやアプリ	75	75	57	38	15	3
本・雑誌	39	33	49	49	53	37
テレビ	21	27	37	52	55	50
家族から教わった料理	48	45	30	29	31	22

6　おわりに

自分の食生活に満足している人は84％と，今の日本人は，全体でみれば，食への不満はさほどないようである。

ただ，それぞれが置かれた状況により，食生活や価値観に違いがみられる。例えば年収が低い人ほど，野菜や肉を食べる頻度が低く，食生活の満足度も低い。食費の負担感もより強かった。

また，日本人の食卓が多くの外国食品に依存している食のグローバル化への不安があり，食品に安全性を求める意識も高まっていた。

さらに，若い人を中心にインターネットが食生活に浸透している様子もうかがえる。若い女性では料理の写真をSNSやブログに投稿するなど，食を介した新たなコミュニケーションも行われているようである。

本稿では，今の日本人が何を食べているのかという実態と食への価値観についてみてきたが，食について考えるとき，もう一つ重要なことは，家族と一緒に食べるかどうかであ

る。今回の調査では，家族と食の関係についても幅広く聞いている。家族と囲む食卓や“孤食”の実態はどうなっているのか，これまでの女性中心の食事作りは変わるのかなど，次号で改めて報告する予定である。

（むらた ひろこ／まさき みき／
はぎはら じゅんじ）

注：

1）農林水産省，2016,「平成26年度食料需給表」
2）回答結果をまとめる場合は，実数で足し上げて％を計算しているため，単純に％を足し上げた数字と一致しないことがある（以下同）。
3）厚生労働省，2016,「平成26年国民健康・栄養調査」年次別結果
4）厚生労働省，2015,「平成26年国民健康・栄養調査結果の概要」
5）農林水産省，2016,「平成27年度食料・農業・農村白書」
6）AMC調査（Ajinomoto Monitoring Consumer Survey）」。「市販惣菜等は気がひける」という女性は，1988年に79.9％だったのが，2012年には61.4％にまで減少した（畠山洋輔，2015,「食のファーストフード化は進んでいるか」，品田知美，野田潤，畠山洋輔，『平成の家族と食』，晶文社）
7）水産庁，2016,「ウナギをめぐる状況と対策について」
8）総務省，2016,「消費者物価指数」
9）第20問「料理をするか」の単純集計結果については，76ページを参照。
『料理をしている』は「いつも」「たいてい」「ときどき」料理をしている人をさす。
10）農林水産省調べ。調査実施後の2016年8月2日，同省が発表した「平成27年度食料自給率等について」によると，2015年度の食料自給率（カロリーベース）も39％である。
11）TPP＝環太平洋パートナーシップ協定は，署名式が行われた2016年2月から2年以内に参加12か国すべてが国内手続きを完了すれば発効する。2年後以降でも，12か国のGDP総額の85％を占める6か国以上が手続きを終えれば，60日後に発効する。
12）藤本憲一，2014,「ながらスマホで，ファッションフード，ときどきお菓子作り，常時おしゃべり」，『食文化誌vesta』（NO.93），味の素食の文化センター
13）クックパッド株式会社，2016年3月4日，ニュースリリース

食生活に関する世論調査　単純集計結果

【調査の概要】

調査目的	現代の日本人の食に関する価値観，食品の選択において重視すること，食生活の実態などを探る。
調査時期	2016年2月27日（土）～3月6日（日）
調査方法	配付回収法
調査相手	全国16歳以上の国民3,600人（12人×300地点）
調査有効数（率）	2,484人（69.0%）

―金曜日の朝食（MA）―

第1問　あなたは，2月26日（金）の朝，何を食べましたか。あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

1. ごはん（米）…… 45.6％
2. パン …… 40.7
3. めん類 …… 2.4
4. シリアル，クラッカーなど …… 2.5
5. 魚，貝など …… 10.5
6. 肉，ハム，ソーセージなど …… 19.3
7. 卵 …… 27.4
8. 豆類 …… 14.5
9. 野菜，くだもの …… 39.9
10. みそ汁，スープ …… 34.3
11. 牛乳，ヨーグルト …… 29.8
12. コーヒー，紅茶など …… 42.6
13. ジュース …… 5.1
14. 菓子 …… 3.0
15. 栄養補給食品 …… 3.8
16. サプリメント …… 7.0
17. その他 …… 3.1
18. 何も食べたり飲んだりしなかった …… 5.4
19. 無回答 …… 0.2

―食べる頻度―

第2問　あなたは，次のようなものを食べることがどの程度ありますか。AからEそれぞれについて，あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

（%）	1. 毎日3回以上	2. 毎日2回	3. 毎日1回	4. 週に3～6日	5. 週に1～2日	6. ほとんど食べない	7. まったく食べない	8. 無回答
A．ごはん（米）	20.1	49.5	20.8	6.5	1.7	0.8	0.2	0.5
B．パン	4.3	3.0	31.7	15.9	29.1	12.1	1.3	2.5
C．肉	3.0	8.3	15.9	45.3	22.9	2.5	0.7	1.4
D．魚	2.1	3.2	10.5	35.9	41.7	4.8	0.4	1.4
E．野菜	18.6	29.4	24.0	20.6	5.1	1.4	0.2	0.7

―好きな料理（自由回答，3つまで）―

第3問　あなたは，どんな料理が好きですか。“煮魚”“ロールキャベツ”“酢豚”というように，好きな料理の名前を，具体的に3つまであげてください。

1. カレーライス …… 20.2％
2. 焼き魚 …… 16.4
3. 焼き肉・鉄板焼き …… 15.1
4. 煮魚 …… 14.0
5. ハンバーグ …… 12.0
6. さしみ …… 12.0
7. すし …… 11.4
8. ラーメン …… 10.8
9. 鶏のから揚げ・竜田揚げ …… 10.3
10. 煮物 …… 8.3
11. 野菜いため …… 7.8
12. サラダ …… 6.8
13. 餃子・シュウマイ …… 6.3
14. スパゲティ，パスタ …… 6.3
15. 野菜の煮物 …… 5.5
16. すきやき・しゃぶしゃぶ …… 5.4
17. 肉じゃが …… 5.0
18. その他の鍋物類 …… 4.8
19. とんかつ …… 4.0
20. 天ぷら …… 3.8

―加工食品の摂取頻度―

第4問　あなたは，次のようなものを食べたり飲んだりすることがどの程度ありますか。

（%）	1. よくある	2. ときどきある	3. あまりない	4. まったくない	5. 無回答
A．出来合いの弁当・惣菜	16.4	46.9	29.5	6.6	0.6
B．ファストフード	3.3	31.2	45.9	18.0	1.5
C．冷凍食品	12.0	42.1	34.7	10.3	0.8
D．インスタント食品	9.0	49.1	34.3	6.8	0.9
E．サプリメント	14.0	11.6	18.1	55.0	1.4

―平日の食事の回数―

第5問　あなたは，平日，1日に何食とりますか。平均的な回数をお答えください。

1. 1食 …… 0.6％
2. 2食 …… 18.0
3. 3食 …… 80.5
4. 4食以上 …… 0.8
5. 無回答 …… 0.1

―1日全食孤食の頻度―

第6問　あなたは，1日のすべての食事を一人でとることがどの程度ありますか。

1. ほとんどない …… 65.7％
2. 週に1～2日くらい …… 11.3
3. 週に3～4日くらい …… 8.2
4. 週に5～6日くらい …… 6.0
5. 毎日 …… 8.8
6. 無回答 …… 0.1

―孤食の理由（MA）―

第7問　【第6問で「2～5」に○をした方に】あなたが，1日のすべての食事を一人でとることがあるのはなぜですか。次の中からあてはまるものをいくつでも選んでください。

1. 忙しいから …… 14.9％
2. ほかの人と時間が合わないから …… 60.1
3. 一人で食べるほうが気が楽だから …… 8.5
4. 自分の時間を大切にしたいから …… 2.9
5. 一人暮らしだから …… 28.4
6. 無回答 …… 2.1

（該当者＝850人）

―家族と同居しているか―

第8問　現在，あなたは家族（家計をともにしている方）といっしょに住んでいますか。単身赴任や入院などで，一時的に別居している家族は除いてお答えください。

1. 家族と住んでいる …… 88.2％
2. 一人で住んでいる …… 10.2
3. 家族とは住んでいないが，家族以外の人と同居している …… 1.4
4. 無回答 …… 0.2

―同居の家族構成（MA）―

第9問　【第8問で「1」に○をした方に】現在いっしょに住んでいる家族は，どなたですか。あなたからみた続柄でお答えください。なお，「配偶者」には，婚姻届を出していないパートナーも含みます。

1. 配偶者またはパートナー …… 70.2％
2. 親 …… 26.3
3. 配偶者の親 …… 4.3
4. 祖父母や，配偶者の祖父母 …… 3.5
5. 兄弟姉妹や，配偶者の兄弟姉妹 …… 11.1
6. 子ども …… 50.3
7. 子どもの配偶者 …… 4.5
8. 孫 …… 4.7
9. それ以外の人 …… 0.6
10. 無回答 …… 0.1

（該当者＝2,190人）

―家族全員で夕食をとる頻度―

第10問　【第8問で「1」に○をした方に】あなたのご家庭では，いっしょに住んでいる家族全員で夕食をとることが，どのくらいありますか。

1. 毎日 …… 37.7％
2. 週に5～6日くらい …… 12.1
3. 週に3～4日くらい …… 14.5
4. 週に1～2日くらい …… 21.4
5. 月に1～2日くらい …… 4.9
6. ほとんどない …… 9.3
7. 無回答 …… 0.2

（該当者＝2,190人）

―夕食時に家族がそろわない理由（MA）―

第11問　【第10問で「2～6」に○をした方に】家族がそろわない主な理由は何ですか。あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

1. 仕事があるから …… 82.1％
2. 学校のクラブ活動や学習塾，習い事があるから　17.0
3. 友人，仲間とのつきあいがあるから …… 18.6
4. その他 …… 8.8
5. 無回答 …… 1.7

（該当者＝1,361人）

第12・13問は，家族と同居していない方も，同居している家族がいるものとしてお答えください。

―家族そろっての夕食―

第12問　いっしょに住んでいる家族が，そろって夕食をとることについて，あなたはどう思いますか。

（％）	1. そう思う	2. そう思う どちらかといえば，	3. そう思わない どちらかといえば，	4. そう思わない	5. 無回答
A．家族そろって夕食をとることは楽しい	66.3	27.1	3.4	1.7	1.5
B．家族そろって夕食をとると家族のきずなが強まる	54.6	34.1	5.4	3.5	2.4

―家族そろって夕食をとりたいか―

第13問　いっしょに住んでいる家族全員で，日常の夕食をそろってとりたいと思いますか。

1. できるだけ毎日，そろってとりたい …… 58.2％
2. 週に何日かは，そろってとりたい …… 23.6
3. 月に何日か，そろってとればよい …… 4.2
4. 行事やお祝いなど特別な日に，そろってとればよい …… 4.2
5. そろうかどうかは特に気にしない …… 8.8
6. 無回答 …… 1.0

―夕食の外食頻度―

第14問　あなたは，夕食を外食にすることが，どのくらいありますか。

1. 毎日 …… 0.7％
2. 週に５～６日くらい …… 0.7
3. 週に３～４日くらい …… 3.0
4. 週に１～２日くらい …… 18.1
5. 月に１～２日くらい …… 38.6
6. ほとんどない …… 38.7
7. 無回答 …… 0.2

―夕食を外食にする理由（MA）―

第15問　【第14問で「1～5」に○をした方に】あなたが，夕食を外食にするのは，どういう場合が多いですか。あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

1. 同僚や友人とのつきあいで …… 44.7％
2. 家族との団らんやお祝いのとき …… 44.1
3. 買い物や行楽のついでに …… 43.6
4. 気分転換をしたいとき …… 19.7
5. 家ではできないものを食べたいとき …… 25.3
6. 仕事や用事で帰宅が遅くなるとき …… 31.5
7. 簡単に食事をすませたいとき …… 21.7
8. 食費を安く抑えたいとき …… 0.9
9. 料理をするのが面倒なとき …… 28.1
10. 無回答 …… 0.5

（該当者＝1,519人）

―食事で重視すること―

第16問　あなたが食事をするとき，いちばん重視することは何ですか。あえて１つだけ選ぶとすればどれでしょうか。

1. 空腹が満たされること …… 16.3％
2. 栄養がとれること …… 24.2
3. 簡単にすませること …… 3.1
4. おいしいものを食べること …… 39.5
5. 楽しく食べること …… 16.7
6. 無回答 …… 0.1

―食生活で気をつけていること（MA）―

第17問　次の中で，あなたが食事について，ふだん気をつけていることがありますか。あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

1. １日３食をきちんととる …… 52.7％
2. 夜遅い時間に食事をしない …… 34.1
3. 家族といっしょに食事をとる …… 27.1
4. 栄養のバランスが，かたよらないようにする …… 55.4
5. カロリーをとりすぎない …… 34.5
6. 間食をしない …… 16.9
7. その他 …… 3.2
8. 特にない …… 10.7
9. 無回答 …… 0.3

―食生活の満足度―

第18問　あなたは，今の自分の食生活にどの程度満足していますか。

1. とても満足している …… 14.7％
2. まあ満足している …… 69.4
3. あまり満足していない …… 13.4
4. まったく満足していない …… 2.2
5. 無回答 …… 0.3

―食事を作る人（MA）―

第19問　お宅では，ふだん，どなたが食事を作っていますか。あなたからみた続柄で，あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

1. 自分 …… 57.3％
2. 配偶者またはパートナー …… 34.4
3. 子ども …… 6.7
4. 自分の母親や，配偶者の母親 …… 20.9
5. 自分の父親や，配偶者の父親 …… 2.1
6. その他の家族 …… 2.9
7. それ以外の人 …… 1.2
8. 誰も作らない …… 0.7
9. 無回答 …… 0.2

―料理をするか―

第20問　あなたは，ふだん，自宅で食事のしたくなど，料理をしていますか。

1. いつもしている …… 35.4％
2. たいていしている …… 11.7
3. ときどきしている …… 24.8
4. まったくしていない …… 27.5
5. 無回答 …… 0.5

―夕食作りの所要時間―

第21問　【第20問で「1～3」に○をした方に】あなたは，夕食の料理をするのに，だいたいどのくらい時間をかけていますか。

1. 10分くらい …… 4.1％
2. 20分くらい …… 9.6
3. 30分くらい …… 29.2
4. 1時間くらい …… 42.0
5. 1時間半くらい …… 9.6
6. 2時間くらい …… 1.6
7. 2時間半くらい …… 0.7
8. 3時間以上 …… 0.1
9. 夕食は作らない …… 2.5
10. 無回答 …… 0.5

（該当者＝1,787人）

―料理の参考にするもの（MA）―

第22問　【第20問で「1～3」に○をした方に】あなたは，ふだん料理をするとき，どんなものを参考にして作りますか。あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

1. テレビ …… 35.9％
2. 料理の本・雑誌 …… 36.1
3. 新聞 …… 7.7
4. インターネット上のレシピサイトやアプリ …… 37.4
5. LINE や Facebook，Instagram などの SNS …… 2.0
6. 外食のとき食べた料理 …… 15.2
7. 家族から教わった料理 …… 31.6
8. 友人や知人から教わった料理 …… 23.6
9. その他 …… 5.7
10. 何も参考にしない …… 16.7
11. 無回答 …… 0.2

（該当者＝1,787人）

―食品を買うとき重視すること―

第23問　あなたが食品を買うときに，いちばん重視することは何ですか。あえて1つだけ選ぶとすればどれでしょうか。

1. 味がよいこと …… 13.0％
2. 新鮮なこと …… 25.8
3. 栄養があること …… 4.3
4. 手軽に食べられること …… 6.3
5. 価格が安いこと …… 16.2
6. 安全なこと …… 23.9
7. 自分で食品は買わない …… 10.1
8. 無回答 …… 0.4

―食品の無駄を出さない配慮（MA）―

第24問　あなたは，食品の無駄を出さないために行っていることがありますか。あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

1. 食品は余分に買わず，必要な分だけ買う …… 41.4％
2. 料理を食べ残さない …… 52.4
3. 購入した食品はすべて使い切る …… 32.4
4. 賞味期限が過ぎていても，数日程度であれば食べる …… 51.2
5. その他 …… 2.9
6. 何もしていない …… 9.1
7. 無回答 …… 0.5

―手をつけていない食品を捨てるか―

第25問　あなたは，まったく手をつけていない食品を，そのまま捨ててしまうことがありますか。

1. よくある …… 1.4％
2. ときどきある …… 23.7
3. あまりない …… 47.2
4. まったくない …… 27.3
5. 無回答 …… 0.4

―生鮮食品の購入場所（MA）―

第26問　あなたは，ふだん，生鮮食品をどこで買っていますか。店舗や宅配など，あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

1. スーパーマーケット …… 90.0％
2. 八百屋や魚屋などの個人商店 …… 13.2
3. 百貨店 …… 8.6
4. 有機野菜などを専門に扱う店 …… 3.1
5. 農産物直売所 …… 19.6
6. コンビニエンスストア …… 10.0
7. 100円ショップ …… 2.0
8. スーパーマーケットの宅配や生協の宅配 …… 13.0
9. 有機野菜などを専門に扱う宅配 …… 1.3
10. その他 …… 1.2
11. 生鮮食品の買い物はしない …… 6.5
12. 無回答 …… 0.5

―生鮮食品の購入店までの所要時間―

第27問　あなたが，生鮮食品を買うために，自宅から最もよく行く店までどのくらい時間がかかりますか。ふだん使っている交通手段での所要時間をお答えください。

1. 10分未満 …… 44.2％
2. 10分～20分未満 …… 36.7
3. 20分～30分未満 …… 10.1
4. 30分以上 …… 3.3
5. 店では生鮮食品を買わない …… 4.8
6. 無回答 …… 0.8

―買い物で不便を感じるか―

第28問　あなたは，日常の生鮮食品の買い物で，どのくらい不便を感じていますか。

1. 大いに感じている …… 3.0％
2. ある程度感じている …… 13.3
3. あまり感じていない …… 54.5
4. まったく感じていない …… 21.4
5. 生鮮食品の買い物はしない …… 6.8
6. 無回答 …… 1.0

―買い物で不便を感じる理由（MA）―

第29問　【第28問で「1，2」に○をした方に】買い物が不便だと感じるのはなぜですか。あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

1. 店が近くにない …… 53.0％
2. 交通手段が限られている …… 30.0
3. 必要な生鮮食品を手に入れるのが難しい …… 20.4
4. 身体が不自由で，買い物に行くのが難しい …… 8.6
5. 育児や介護で，買い物に行くのが難しい …… 7.6
6. 買い物したい時間に店が開いていない …… 6.7
7. この中にあてはまるものはない …… 10.3
8. 無回答 …… 0.7

（該当者＝406人）

―食費に対する意識―

第30問　あなたのご家庭の食費についてうかがいます。次のA，Bそれぞれについて，あなたのお気持ちに最も近い番号に○をつけてください。

(%)	1. そう思う	2. そう思うどちらかといえば，	3. そう思わないどちらかといえば，	4. そう思わない	5. 無回答
A．食費にお金をかけることは惜しまない	9.9	39.1	36.4	12.5	2.1
B．食費は，家計の負担になっている	12.9	32.9	34.5	16.9	2.8

―夕食時，テレビをつけているか―

第31問　あなたは，ふだん，自宅で夕食をとっているとき，テレビをつけていますか。それともつけていませんか。

1. いつもつけている …… 51.0％
2. だいたいつけている …… 25.9
3. ときどきつけている …… 8.5
4. ほとんどつけていない …… 8.3
5. 食事をする部屋にテレビは置いていない …… 6.0
6. 無回答 …… 0.3

―夕食時の携帯電話利用―

第32問　あなたは，ふだん，自宅で夕食をとっているとき，携帯電話やスマートフォンを使って，AからFのようなことをすることがどの程度ありますか。携帯電話やスマートフォンを持っていない方は「5」に○をつけてください。

(%)	1. よくある	2. ときどきある	3. あまりない	4. まったくない	5. 携帯電話・スマートフォンは持っていない	6. 無回答
A．電話をかける，電話に出る	2.0	14.3	31.4	40.3	10.3	1.7
B．LINEやFacebook，Instagramなどの SNSを利用する	3.5	10.6	12.8	60.8	10.3	2.0
C．メールのやりとりをする	2.1	10.0	20.8	54.7	10.3	2.0
D．情報を検索する	2.7	9.7	12.9	62.4	10.3	2.0
E．動画を見る	1.7	3.3	8.2	74.6	10.3	2.0
F．ゲームをする	1.2	3.6	5.5	77.5	10.3	1.9

―夕食時の家族の携帯電話利用への態度―

第33問　家族といっしょに夕食をとっているとき，家族がその場で携帯電話やスマートフォンを利用することについて，どのようにお考えですか。

1. 携帯電話やスマートフォンの利用は一切控えたほうがよい …… 23.0％
2. 電話に出たり，送られてきたメールやメッセージを読んだりするだけならかまわない …… 27.9
3. 仕事などやむをえない用件の場合や，手短にすます配慮があれば，電話をかけてもかまわない …… 31.6
4. 本人の考えで自由に使ってよい …… 15.3
5. 無回答 …… 2.1

―インターネットの利用頻度―

第34問　ところで，あなたは，ふだんインターネットをどの程度利用しますか。

1. 毎日 …… 43.4％
2. 週に5～6日くらい …… 7.2
3. 週に3～4日くらい …… 6.3
4. 週に1～2日くらい …… 6.7
5. ほとんど使わない …… 16.0
6. インターネットを使う環境がない …… 20.2
7. 無回答 …… 0.3

―料理の写真をSNSやブログに投稿するか―

第35問　【第34問で「1～4」に○をした方に】あなたは，自分が食べた料理の写真を，LINEやFacebook，Instagramなどの SNSやブログに投稿することがどの程度ありますか。

1. よくある …… 3.9％
2. ときどきある …… 16.6
3. ない …… 79.6
4. 無回答 …… 0.0

（該当者＝1,577人）

―投稿する理由（MA）―

第36問　【第35問で「1，2」に○をした方に】あなたがそうした料理の写真を投稿するのはなぜですか。あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

1. 日々の記録として残したいから …… 47.8％
2. 特別な日の記念として残したいから …… 44.1
3. 写真を見返したときに，料理を作る意欲がわくから …… 6.5
4. 多くの人に料理を見てもらいたいから …… 17.7
5. インターネット上で「いいね」やコメントがほしいから …… 13.7
6. 写真を見た人との会話のきっかけになるから …… 28.0
7. その他 …… 3.7
8. 無回答 …… 0.6

（該当者＝322人）

―食の情報―

第37問　あなたは，食に関するAからCのような情報を，どのような手段で入手することがいちばん多いですか。AからCについて，それぞれ最もあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

（%）	1. 新聞	2. テレビ・ラジオ	3. インターネット	4. 雑誌・本	5. 家族・友人・知人との会話	6. そうした情報は入手しない	7. 無回答
A．飲食店の情報	5.0	16.1	28.3	8.3	30.9	10.3	1.1
B．食品の安全に関する情報（食中毒，偽装表示，異物混入など）	12.0	57.0	15.1	1.5	5.2	8.2	1.0
C．食の流行や話題	3.0	53.1	16.0	4.6	13.2	8.9	1.0

―食品の安全で気にしている情報（MA）―

第38問　次の中で，あなたが食品の安全について気にしている情報はありますか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

1. 産地 …… 62.1％
2. 賞味期限・消費期限 …… 72.0
3. 添加物 …… 41.4
4. アレルギー物質 …… 12.5
5. 農薬・肥料 …… 26.0
6. 遺伝子組み換え …… 25.8
7. 食品に含まれる放射性物質 …… 21.0
8. 工場などでの衛生・品質管理 …… 24.2
9. その他 …… 0.9
10. 気にしている情報はない …… 7.7
11. 無回答 …… 0.4

―食品の安全に関する情報源の信頼度―

第39問　あなたは，次のA～Eから発信される食品の安全に関する情報を，どの程度信頼していますか。AからEそれぞれについて，あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

（%）	1. 信頼している	2. 信頼しているどちらかといえば，	3. 信頼していないどちらかといえば，	4. 信頼していない	5. 無回答
A．食品メーカーなどの企業からの情報	14.1	65.2	15.3	3.8	1.6
B．国や自治体からの情報	18.8	63.3	12.5	3.7	1.8
C．消費者団体からの情報	18.5	66.3	10.1	2.9	2.1
D．家族・友人・知人からの情報	18.5	67.1	10.5	2.3	1.6
E．インターネット上の個人の書き込み	2.5	27.8	38.9	24.9	5.9

―TPPの影響（MA）―

第40問　2015年10月，日本を含む12か国がTPP（環太平洋パートナーシップ協定）で大筋合意しました。協定が発効すれば，外国の食品がより多く日本に流通することが見込まれています。あなたは，そのことによってどんな影響があると思いますか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

1. 今より安い外国産の食品が手に入る …… 43.7％
2. 食品の選択肢が広がる …… 38.7
3. 日本の農水産物の輸出が増えるきっかけになる　19.4
4. 食品の安全性が低下する …… 57.5
5. 国内の農家の経営が苦しくなる …… 55.3
6. 日本の食料自給率が下がる …… 47.4
7. その他 …… 3.1
8. 影響はないと思う …… 3.7
9. 無回答 …… 1.2

―国産か外国産か―

第41問　あなたは，価格の高い国産と価格の低い外国産の生鮮食品が売り場に並んでいた場合，どちらを選びますか。

1. 国産を選ぶ …… 33.1％
2. どちらかといえば，国産を選ぶ …… 51.8
3. どちらかといえば，外国産を選ぶ …… 12.6
4. 外国産を選ぶ …… 1.9
5. 無回答 …… 0.6

―国産を選ぶ理由（MA）―

第42問　【第41問で「1，2」に○をした方に】あなたが，価格の低い外国産よりも，価格の高い国産の生鮮食品を選ぶ理由は何ですか。次の中から，あてはまるものをいくつでも選んでください。

1. 安全だと思うから …… 91.3％
2. 新鮮だと思うから …… 60.0
3. おいしいと思うから …… 46.2
4. 見た目がよいと思うから …… 4.0
5. 国産のものを応援したいから …… 38.3
6. 輸送による環境への負荷が少ないから …… 7.0
7. その他 …… 0.9
8. 無回答 …… 0.1

（該当者＝2,109人）

―食料自給率に対する考え―

第43問　日本の食料自給率は，50年前の1966年度は68％でしたが，長期的に低下傾向が続き，2014年度は39％でした。あなたは，今後の日本の食料自給率についてどのように考えますか。次の中から，あなたのお気持ちに最も近いものを選んでください。

1. 高めたほうがよい …… 75.9％
2. 今の水準でよい …… 20.2
3. 下がってもかまわない …… 2.8
4. 無回答 …… 1.1

―食料輸入依存への不安―

第 44 問　日本は多くの食品を外国から輸入しています。あなたは，このことについてどのようにお考えですか。次の中から，あなたのお気持ちに近いものを選んでください。

1. とても不安がある …… 18.2 %
2. ある程度不安がある …… 58.8
3. あまり不安はない …… 20.6
4. まったく不安はない …… 1.8
5. 無回答 …… 0.6

―食料輸入依存に不安を感じる理由―

第 45 問　【第 44 問で「1，2」に○をした方に】あなたが不安を感じるいちばんの理由は何ですか。あえて 1 つだけ選ぶとすればどれでしょうか。

1. 干ばつなどの異常気象により，世界的に食料の生産量が減るおそれがあるから …… 13.0 %
2. 世界的な人口増加で食料の需要が高まり，輸入量が減るおそれがあるから …… 5.9
3. 国際情勢の変化により，食料の輸入量が減ったり，止まったりするおそれがあるから …… 31.3
4. 国内の食料の生産力が低下するおそれがあるから …… 49.5
5. 無回答 …… 0.4

（該当者＝ 1,912人）

―行事食を食べたか（MA）―

第 46 問　次にあげた料理や食べ物の中で，あなたが最近 1 年間に食べたり飲んだりしたものがありますか。

1. おせち料理 …… 76.5 %
2. おとそ …… 22.0
3. 正月の雑煮 …… 80.1
4. 七草がゆ …… 31.8
5. 節分の巻き寿司 …… 64.3
6. 春の彼岸のおはぎ …… 38.1
7. 土用の丑の日のうなぎ …… 46.3
8. 秋の彼岸のおはぎ …… 36.2
9. 冬至のかぼちゃ …… 48.0
10. クリスマスケーキ …… 71.6
11. 年越しそば …… 82.9
12. この中にはない …… 1.4
13. 無回答 …… 0.4

―親との料理体験―

第 47 問　あなたが子どものころ，親といっしょに台所に立って，料理を教えてもらったり，手伝ったりしたことはありましたか。

1. よくあった …… 18.5 %
2. ときどきあった …… 25.6
3. たまにあった …… 25.0
4. ほとんどなかった …… 30.3
5. 無回答 …… 0.6

―子どものころ食事中に受けたしつけ（MA）―

第 48 問　あなたが子どものころ，食事のとき守るように言われていたことがありますか。

1. 食事の前や後にあいさつをする …… 50.7 %
2. お箸を正しく持つ …… 65.7
3. 食べ物を残さない …… 64.1
4. 好き嫌いなく食べる …… 61.8
5. ご飯とおかずを交互に食べる …… 26.2
6. 食事中は静かにする …… 23.8
7. 音を立てて食べない …… 47.5
8. 食卓にひじをつかない …… 70.1
9. 食事中に席をはずさない …… 24.9
10. 食事をしながらほかのことをしない …… 43.2
11. その他 …… 3.1
12. この中にはない …… 3.2
13. 無回答 …… 0.9

―高校生までの子どもはいるか（MA）―

第 49 問　あなたのお子さんで，現在，高校生までの方はいらっしゃいますか。あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

1. 高校生 …… 7.6 %
2. 中学生 …… 7.2
3. 小学生 …… 11.3
4. 1 歳から小学校就学前 …… 9.3
5. 0 歳 …… 1.7
6. 高校生までの子どもはいない …… 70.7
7. 無回答 …… 3.5

―子どもとの料理体験―

第 50 問　【第 49 問で「1 ～ 4」に○をした方に】現在，お子さんといっしょに台所に立って，料理を教えたり，手伝いをさせたりすることはありますか。

1. よくある …… 7.6 %
2. ときどきある …… 25.6
3. たまにある …… 32.7
4. ほとんどない …… 33.7
5. 無回答 …… 0.5

（該当者＝ 621 人）

―食事中に子どもにしつけをしているか（MA）―

第 51 問　【第 49 問で「1 ～ 4」に○をした方に】現在，あなたがお子さんに対して，食事のとき守るように言っていることはありますか。

1. 食事の前や後にあいさつをする …… 59.9 %
2. お箸を正しく持つ …… 54.3
3. 食べ物を残さない …… 55.4
4. 好き嫌いなく食べる …… 63.8
5. ご飯とおかずを交互に食べる …… 32.0
6. 食事中は静かにする …… 15.8
7. 音を立てて食べない …… 45.9
8. 食卓にひじをつかない …… 67.8
9. 食事中に席をはずさない …… 37.4
10. 食事をしながらほかのことをしない …… 59.9
11. その他 …… 4.3
12. この中にはない …… 4.0
13. 無回答 …… 0.8

（該当者＝ 621 人）

―好き嫌いを注意する頻度―

第 52 問　【第 49 問で「1 ～ 4」に○をした方に】あなたは，ふだんお子さんが食事の好き嫌いをしないように注意しますか。それとも特に注意はしませんか。

1. よく注意する …… 19.0 %
2. ときどき注意する …… 30.0
3. たまに注意する …… 29.5
4. 特に注意はしない …… 12.9
5. もともと子どもに好き嫌いがない …… 8.7
6. 無回答 …… 0.0

（該当者＝ 621 人）

―健康状態―

第 53 問　あなたは，ご自分の心や身体の健康状態についてどう感じていますか。

1. よい …… 17.3 %
2. まあよい …… 60.5
3. あまりよくない …… 18.5
4. よくない …… 3.2
5. 無回答 …… 0.5

―性別―

第 54 問　サンプル構成参照

―生年―

第 55 問　省略

―労働時間―

第 56 問　あなたは，収入を得るため，1 週間に何時間くらい仕事をしていますか。ここでいう「仕事」には，パートやアルバイトを含みます。2 つ以上，仕事をお持ちの場合は，すべての労働時間を合算してお答えください。

1. 週 10 時間未満 …… 4.8 %
2. 週 10 時間以上 35 時間未満 …… 14.5
3. 週 35 時間以上 50 時間未満 …… 28.8
4. 週 50 時間以上 …… 16.3
5. 仕事はしていない …… 34.7
6. 無回答 …… 0.9

―職業―

第 57 問　サンプル構成参照

―雇用形態―

第 58 問　【第 57 問で「2」（勤めている）に○をした方に】あなたの働きかたは，次のように分けると，どれにあたりますか。

1. 正規の職員または従業員 …… 59.5 %
2. パートまたはアルバイト …… 27.1
3. 契約社員，嘱託社員 …… 8.6
4. 派遣社員 …… 2.7
5. その他 …… 1.0
6. 無回答 …… 1.3

（該当者＝ 1,157 人）

―世帯年収―

第 59 問　あなたのご家庭の去年 1 年間の収入は税込みでいくらでしたか。一緒に生活している方の収入を含めて，次の中から 1 つ選んで○をつけてください。

1. 200 万円未満 …… 13.2 %
2. 200 万円以上 300 万円未満 …… 15.3
3. 300 万円以上 500 万円未満 …… 26.1
4. 500 万円以上 700 万円未満 …… 18.6
5. 700 万円以上 1,000 万円未満 …… 12.7
6. 1,000 万円以上 …… 7.9
7. 無回答 …… 6.3

―結婚しているか―

第 60 問　あなたは現在，結婚していますか。ここでいう「結婚」には，婚姻届を出していない事実婚も含みます。

1. 結婚している
   （現在，配偶者またはパートナーがいる） …… 64.1 %
2. 結婚したが，配偶者またはパートナーと離別，
   死別した …… 12.3
3. 結婚したことがない …… 22.9
4. 無回答 …… 0.6

―配偶者の職業―

第 61 問　【第 60 問で「1」に○をした方に】あなたの配偶者またはパートナーの職業は，次のように分けると，どれにあたりますか。あてはまるものに 1 つだけ○をつけてください。ここでの「職業」とは，収入を得るため継続的に従事している仕事のことを指します。

1. 自分で商売や仕事をしている
   （農林漁業，自営業，会社経営，家族従事者も含む） …… 14.1 %
2. 勤めている …… 43.4
3. 専門職・自由業
   （医師，弁護士，芸術家，学者など） …… 2.7
4. 主婦・主夫
   （パートの有無にかかわらず家事が主の人） …… 17.8
5. 学生（専修・各種学校生を含む） …… 0.1
6. 無職 …… 19.5
7. その他 …… 0.3
8. 無回答 …… 2.1

（該当者＝ 1,593 人）

―学歴―

第 62 問　あなたが最後に卒業された学校を，次の中から 1 つだけ○をつけてください（在学中の方は，現在通っている学校をお答えください。ただし専門・専修学校などは除きます）。

1. 中学校（旧制小学校，高等小学校） …… 12.6 %
2. 高等学校（旧制中学校，女学校） …… 40.3
3. 高等専門学校・短期大学（旧制高等学校） …… 18.9
4. 大学・大学院 …… 21.7
5. 【在学中】高等学校，高等専門学校（1 ～ 3 年生） …… 2.9
6. 【在学中】高等専門学校（4，5 年生），短期大学 …… 0.4
7. 【在学中】大学・大学院 …… 2.3
8. 無回答 …… 0.8

―固定・携帯電話を持っているか―

第63問　あなたの自宅には固定電話はありますか。また，あなたは携帯電話（スマートフォン，PHSを含む）を持っていますか。

1. 固定電話と携帯電話の両方を持っている …… 75.6％
2. 固定電話はあるが，携帯電話は持っていない …… 9.5
3. 固定電話はないが，携帯電話は持っている …… 13.9
4. どちらも持っていない …… 0.6
5. その他 …… 0.1
6. 無回答 …… 0.3

―固定・携帯電話のどちらを使うか―

第64問　【第63問で「1」に○をした方に】あなたは電話をかけるとき，固定電話と携帯電話（スマートフォン，PHSを含む）のどちらを使いますか。

1. 主に固定電話を使う …… 13.4％
2. どちらかといえば，固定電話を使う …… 11.4
3. どちらかといえば，携帯電話を使う …… 38.1
4. 主に携帯電話を使う …… 34.4
5. その他 …… 0.7
6. 無回答 …… 2.0

（該当者＝1,878人）

―携帯電話で未知の番号をとるか―

第65問　あなたは，携帯電話（スマートフォン，PHSを含む）に，知らない番号から電話がかかってきたとき，電話に出ますか。それとも出ませんか。

1. 出る …… 22.9％
2. 2回以上かかってきたら出る …… 17.2
3. 留守番電話を聞いてから決める …… 8.9
4. 出ない …… 39.5
5. 携帯電話を持っていない …… 9.9
6. その他 …… 1.0
7. 無回答 …… 0.6

●サンプル構成比

全体	性		年層						
	男性	女性	16～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
2,484人	1,182	1,302	128	251	372	454	367	432	480
100.0%	47.6	52.4	5.2	10.1	15.0	18.3	14.8	17.4	19.3

全体	男の年層							女の年層						
	16～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	16～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
2,484人	67	111	168	215	184	218	219	61	140	204	239	183	214	261
100.0%	2.7	4.5	6.8	8.7	7.4	8.8	8.8	2.5	5.6	8.2	9.6	7.4	8.6	10.5

全体	職業							
	自分で商売や仕事をしている	勤めている	専門職・自由業	主婦・主夫	学生	無職	その他	無回答
2,484人	257	1,157	93	292	151	441	6	87
100.0%	10.3	46.6	3.7	11.8	6.1	17.8	0.2	3.5

全体	都市規模				
	特別区・人口100万以上の市	人口30万以上の市	人口10万以上の市	人口5万以上の市町村	人口5万未満の市町村
2,484人	502	549	637	385	411
100.0%	20.2	22.1	25.6	15.5	16.5

全体	地域ブロック									
	北海道	東北	関東	甲信越	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州
2,484人	100	202	789	117	317	64	368	169	76	282
100.0%	4.0	8.1	31.8	4.7	12.8	2.6	14.8	6.8	3.1	11.4

●不能理由

全体	不能合計	場所不明	転居	1年以上不在	10日以上不在	10日未満不在	留め置き不可能	自宅療養	拒否	その他	死亡	受取不可能	紛失・汚損	対象違い
3,600人	1,116	37	97	31	67	34	17	20	538	19	9	231	4	12
100.0%	31.0	1.0	2.7	0.9	1.9	0.9	0.5	0.6	14.9	0.5	0.3	6.4	0.1	0.3